

(3) 看護師交流会の開催時期は適当でしたか

はい 28名 いいえ 2名 わからない 1名

(4) 看護師交流会全体に対しての感想・ご意見がありましたらご記入ください

(5) Web 開催についてのご意見、ご感想をお聞かせください

(6) 千葉県看護協会に対しての要望がありましたらご記入ください

8) 総括

令和2年度看護師交流会は「COVID-19 についての取り組みを共有しよう」をテーマに3名のシンポジストをお招きし、各施設での取り組みについてご報告いただいた。参加者31名は、看護部長等の看護管理者から一般職員と幅広く多くの方々の参加があった。

交流会終了後のアンケートでは「各施設の役割機能を踏まえた COVID-19 対策について、理解を深める機会になりましたか」「自施設での COVID-19 対策に活用、または安全な環境作りの参考になりましたか」に対し全員が「はい」と回答した。その理由として、「どの施設もその特殊性をふまえて対応している」「これまでやってきたことの再認識ができた」

「自分たちの行っていることは間違っていない」「ゾーニングについて」「環境整備について」「PPE の使い分け」など、COVID-19 を受け入れた経験のある施設の参加者は自施設での経験を振り返りながら、また COVID-19 を受け入れた経験のない施設の参加者は受け入れることになったときを想定し聴講することで、それぞれが今後の自施設での取り組みに活かす機会となったことがうかがえた。

開催時期については、「適当」という意見が大半を占めたが、不安を抱えながら COVID-19 への対応していたことより、もっと早い時期の開催を求める意見も聞かれた。

また、Web 開催については「移動時間がない」「多くの人に参加できる」「感染のリスクがない」「気楽に参加できる」など今後も Web 開催を希望する意見が多数聞かれた。一方、「スライド画面が発表者用になっていた」「画像や音声途切れる」など Web 開催について講師・受講者双方に不慣れだったことや受講者側のインターネット環境問題なども明らかとなり今後の課題となった。今年度の看護師交流会は前年度の台風被害を念頭に当初「災害」をテーマに実施計画がされていたが、COVID-19 感染拡大も災害の1つととらえ

「COVID-19 についての取り組みを共有しよう」と計画を変更し実施した。今後も、看護師職能 I（病院領域）が抱える問題解決に向けた交流会の開催に努めたい。

3 准看護師交流会 中止

4 令和元年度准看護師交流会参加者追跡アンケート調査

配布数：44名（郵送） 回収数：38名 回収率：86.4% 有効回答：32名（72.7%）

1) 看護師への進学について考えましたか

はい：22名 いいえ：10名

2) 「はい」現在の状況

(1)すでに進学している・・・・・・・・・・0名

(2)受験した・・・・・・・・・・2名

(3)進学のための準備をしている・・・・5名

(4)進学を考えたが保留となっている・・12名

理由（複数回答）

「経済的理由 5件」「仕事との両立の不安 2件」「家庭の事情 2件」

「学力的不安 1件」「新型コロナウイルスに関連した不安 1件」

(5) その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・2名

- ・2021年4月より進学が決まっている
- ・全日制での進学は難しいため2年待ち通信制の学校への進学を考えている

3) 「いいえ」の理由（複数回答）

「経済的理由 3件」「仕事との両立困難 2件」「家庭的事情 2件」「年齢的問題 1件」
「意欲や決断の問題 2件」「時間がない 1件」「新型コロナウイルスに関連した不安 1件」 「現在の生活優先 1件」

4) 今後もこのような機会があれば進学する准看護師は増えると思いますか

はい：30名 いいえ：2名

「はい」の理由（複数回答）

「進学を考える機会になる 7件」「進学に関する情報を得ることができる 6件」
「他医療機関などの人たちと交流できること自体良い 5件」「良い刺激になる 4件」
「進学に関する不安な気持ちが解消される 2件」「進学したい気持ちが膨らむ 2件」
「新たな気づきがある 1件」

「いいえ」の理由

- ・グループ内でディスカッションし色々な方の意見や思いを知ることができたが最終的に進学する（できる）かは家庭の状況にもよると思う

5) 進学に際してあなたの自由な意見をお聞かせください

- ・いつか進学したいと考えながらも、経済的事情や家庭の事情、日々の忙しさなどにより進学することが実現していない
- ・妊娠・出産、育児など日々の忙しさから自分のことが後回しになっている
- ・子どもがまだ小さいため進学は考えられない
- ・「通学可能か」「通信制学校の存在」「勤務する病院のバックアップ」など環境を整えれば進学したい
- ・年齢的な問題から「学習に対する不安」もある

6) 総括

令和元年度に開催された准看護師交流会参加者を対象に追跡調査を行った。有効回答 32名のうち、進学について考えた者は 22名であった。そのうち 1名は令和3年4月からの進学が決定していた。さらに 2名が受験、5名が進学の準備をしているとのことから准看護師交流会に参加し進学に関する情報を得たことが進学に対する動機付けの機会になった。

また、進学を考えたが保留となっている者は 12名であり、保留の理由としては経済的理由が 5名、仕事との両立の不安 2名、家庭の事情 2名など、本人を取り巻く環境的要因が大きいことがわかった。また今回は新型コロナウイルス感染症に関連したことが進学を見合わせる理由として上がっていたことは特徴的であった。

いずれは進学したいと思いながらも日々の仕事や家庭の役割に時間を取られ、具体的に考えられずにいる人も多く、そうした人たちも、このような交流会で他者と触れ合い同じ立場にある人たちとの交流を通して進学について考えたいと思っていることがわかった。

今回の調査より進学を保留にしている理由として「経済的理由」や「仕事との両立」が上

がっていることから次年度は、これらの問題点が解決できるような情報提供も加味した内容を企画検討し、准看護師交流会が進学への動機づけと新しい歩みの一歩に役立つよう看護師職能Ⅰ（病院領域）として准看護師の進学支援を続けていきたい。

令和2年度 看護師職能 I（病院領域）委員会開催状況

回数	開催月日	議 題	内 容
第1回	9月7日	1 職能委員会の役割について 2 職能委員会の運営について 1) 令和2年度活動計画について 2) 活動内容と役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・職能委員会の活動について オリエンテーション ・年間活動計画立案 ・活動内容の確認
第2回	10月27日	1 准看護師交流会 企画・準備 2 看護師交流会 企画・準備	<ul style="list-style-type: none"> ・准看護師交流会の開催日、テーマ、内容について検討 ・看護師交流会の開催日、テーマ、内容について検討
第3回	11月24日	1 関東甲信越職能委員長会報告 2 准看護師交流会 企画・準備 3 看護師交流会 企画・準備	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を用いて情報提供 ・准看護師交流会の内容（タイムスケジュール、講話者、体験者、参加学校）決定 ・当日の役割分担、昨年度受講者への追跡内容決定および調査依頼 ・看護師交流会の開催日、テーマ、内容について検討
第4回	1月26日 (中止)	中止	
第5回	2月27日 (Web開催)	1 准看護師交流会開催について 2 次年度看護師職能集会企画検討 3 当日開催の看護師職能交流会（WEB開催）について 4 次年度の計画 5 看護師職能交流会(Web開催) 6 交流会開催の反省	<ul style="list-style-type: none"> ・准看護師交流会の開催について検討したが本年度の開催は中止とした。次年度7月開催とし企画再検討 ・看護師職能集会の開催について、会場でもWEBでも対応できるよう企画。テーマおよび講師について検討 ・看護師交流会（WEB開催）当日の最終確認 ・初めてのWeb開催であったが、スムーズに進行できた
第6回	3月23日 (Web開催)	1 看護師交流会まとめ 2 令和元年度准看護師交流会参加者追跡アンケートまとめ 3 次年度看護師職能集会企画検討 4 今年度報告まとめ 5 次年度計画 6 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師交流会アンケート集計結果報告 ・前年度交流会参加者の追跡アンケート結果の共有 ・職能集会のテーマについて再検討 ・今年度の活動を振り返りまとめる ・次年度の目標・計画について ・新型コロナウイルス感染症に係るワクチン接種状況情報交換

令和3年度 看護師職能 I（病院領域）委員会活動計画

項 目	内 容	
活動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 看護師が看護専門職として自信と誇りをもって働き続けられるよう、看護師職能委員会 I（病院領域）が抱える課題に取り組む 2 社会医療制度の動向を踏まえ、看護師職能委員会 I（病院領域）の役割を果たすため、看護師職能委員会 I（病院領域）が抱える課題に取り組む 3 准看護師の進学を支援する 4 会員相互の情報交換を図り、病院間の連携を強化する 	
委員会開催予定	<ol style="list-style-type: none"> 1 看護師職能委員会 I（病院領域） 年 6 回 2 看護師職能委員会 I・II 合同委員会 必要時 3 三職能合同委員会 必要時 	
検討事項及び方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 活動目標が達成できるよう、看護師職能委員会 I（病院領域）の抱える課題を明確にし、活動の成果を可視化する 2 中期計画に基づいて交流会を企画し、多様化する看護師の役割の明確化および地域移行支援を推進する 3 准看護師制度の動向を踏まえ、准看護師のスキルアップおよび進学支援を継続する 	
職能集会交流会等	<ol style="list-style-type: none"> 1 看護師職能 I（病院領域）集会 6月23日定期総会後に開催 2 准看護師交流会 7月頃 3 看護師交流会 10月頃 	
その他	日本看護協会	<ol style="list-style-type: none"> 1 千葉県看護協会看護師職能 I（病院領域）活動状況報告 2 日本看護協会看護師職能 I（病院領域）の調査活動に協力 3 都道府県看護師職能委員会 1回/年 4 地区別法人会・看護師職能委員長会 1回/年
	印刷物等	<ol style="list-style-type: none"> 1 職能集会資料 2 交流集会資料 3 職能委員会ホームページの記事掲載および更新 4 その他
	その他	<ol style="list-style-type: none"> 1 千葉県看護協会事業への参加・協力 2 千葉県小児保健協会理事会・総会への参画

看護師職能Ⅱ委員会

(介護及び福祉関係施設・在宅等領域)

委員長 許斐 玲子

I 活動目標

- 1 領域Ⅱの看護師がおかれている現状を把握し、領域Ⅱの看護師の抱える課題や悩みを取り上げながら解決に向けた方策を考え課題に取り組む
- 2 看護師職能領域Ⅱの看護師の役割の理解と質の向上にむけた取り組みを検討する。

II 活動内容

- 1 看護師職能Ⅱ集会 中止
- 2 看護師職能Ⅱ交流会
 - 1)日 時：令和2年11月27日（金）14:00～16:30
 - 2)会 場：千葉県看護協会2階大研修室（Web同時配信）
 - 3)ねらい：実体験学ぶ発生から収束と現在の取り組みの中から、施設や在宅での対策を振り返る
 - 4)講 演：テーマ「体験から学ぶ新型コロナウイルス感染症～発生から収束まで～」
 - 5)参加人数：74名（会場25名 Web49名）
 - 6)アンケート結果
 - (1)回収数：54名（回収率：会場25名（100%）、Web29名（59%））
 - (2)参加者の背景
所属施設：特養34名、老健9名、訪看1名、療養1名、その他9名
職位：管理者4名、部長4名、師長8名、主任8名、スタッフ22名、その他8名
年齢：30代3名、40代14名、50代29名、60代8名
 - (3)内容の理解
理解した31名 ほぼ理解した19名 理解できない0名
 - (4)実践での活用
大いに活用できる20名 活用できる29名 活用できない0名
 - (5)時間構成
適当である47名 短い1名 長い1名
 - 7)評価
新型コロナウイルス感染防止の観点から会場の人数を定員36名とし密を避けてた会場にし、今回初めて会場とWebの同時開催を試みたが大きな混乱はなく終了する事ができた。Web開催で会場に足を運ばなくても研修が受けられるとの声も多かった反面、領域Ⅱは高齢の看護師もいるためWebの操作に不慣れのため参加しにくいとの声もあった。
講義の内容としては、施設内で感染発生し拡大収束までの対応や経過を学ぶ事ができた。講義を通して自施設での感染対策を見直す機会をための知識を得る事ができたと考える。
- 3 季刊誌「ひまわり通信」第1号発刊
看護職領域Ⅱの活動や情報を紹介する事で、従事する場所はそれぞれであっても、看護職同士が繋がる事によって地域に根ざした看護が提供できる事を期待したい。

Ⅲ 令和2年度 看護師職能Ⅱ（介護及び福祉関係施設・在宅等領域）委員会開催状況

回数	開催月日	議 題	内 容
第1回	8月31日	1 新委員の紹介 2 年間活動計画作成 3 職能交流会の検討	1 委員の交代があったため紹介と役割を決めた。 2 年間活動計画を決めた。 3 職能交流会のテーマを検討した。
第2回	9月17日	1 職能交流会の検討 2 ひまわり通信の発行検討	1 職能交流会の日程、テーマを検討し、役割分担をした。 2 ひまわり通信を発行することに決定した。
第3回	10月22日	1 職能交流会の確認 2 職能集会の検討	1 職能交流会の最終確認を行った。 2 職能集会の内容を検討した。
第4回	11月27日	1 職能交流会の確認 2 定時総会要綱の記載について 3 職能集会の検討 4 ひまわり通信の検討 5 中間報告まとめ	1 職能交流会の流れ、役割分担の最終確認をした。 2 定時総会要綱の記載の役割を決めた。 3 職能集会のテーマの絞り込みを行った。 4 ひまわり通信の職場紹介の事業所を決めた。
第5回	12月16日	1 職能交流会の評価 2 職能集会の検討	1 職能交流会のアンケート結果をもとに評価を行った。 2 職能集会のテーマを決定し講師の選定を行った。
第6回	2月17日	1 職能集会の検討 2 ひまわり通信の検討 3 最終まとめ	1 職能集会の講師の選定を検討した。 2 ひまわり通信の検討を行った。 3 最終まとめを行った。

IV 令和3年度 看護師職能Ⅱ（介護及び福祉関係施設・在宅等領域）委員会活動計画

項目	内容	
活動目的	<ol style="list-style-type: none"> 領域Ⅱの看護師が置かれている現状を把握し、領域Ⅱの看護師の課題や悩みを取り上げながら解決に向けた方策を検討する。 領域Ⅱで従事する看護師が看護の役割を理解し、質向上のための取り組みの検討をする。 	
委員会開催予定	<ol style="list-style-type: none"> 看護師職能委員会Ⅱ 6回程度開催 看護師職能Ⅰ・Ⅱ合同委員会 必要時 	
検討事項	<ol style="list-style-type: none"> 令和4年度の定時総会後の職能集会（領域Ⅱ）の企画について 令和3年度の交流会について 広報誌「ひまわり通信」継続について 	
職能集会 交流会等	<ol style="list-style-type: none"> 看護師職能Ⅱ集会 定時総会后6月に開催 看護師領域Ⅱ交流会 1回 	
その他	日本看護協会	<ol style="list-style-type: none"> 千葉県看護協会看護師職能領域Ⅱ活動状況報告 日本看護協会看護職能委員会領域Ⅱの活動へ協力 都道府県看護職能委員会 1回/年 地区別法人会・看護職能委員会 1回/年
	印刷物など	<ol style="list-style-type: none"> 職能集会 交流会資料 広報誌第3号 その他
	その他	<ol style="list-style-type: none"> 千葉県看護協会事業への参加・協力 千葉県小児保険協会理事会・総会への参画

常任委員会及び推薦委員会報告

教育委員会

委員長 田口 真由美

所掌事務	看護職の資質向上に関すること
諮問事項	2025年を見据えた生涯教育の在り方 ・質の高い看護を提供するための人材育成 ・会員にとって魅力ある研修の検討
現状と課題	未曾有のコロナ禍において、医療機関でも、看護協会でも本来の継続教育活動、研修ができていない現状であるが、必要な研修が受けられるよう、新たな方策を考えていく。
検討内容	1 コロナ禍での研修の開催方法について 2 臨地実習を受けられていない新卒新人への教育環境の整備と研修について 3 認定看護管理者サードレベル開講のニーズ調査について
検討結果	1 コロナ禍での研修の開催方法について ・今年度は、自施設での研修も実施できておらず、協会での研修実施希望が高い。Webによる方法も検討し研修は開催してほしいという希望があった。 ・協会では、Web研修をすでに取り入れているが、今までの集合研修のみでなくオンデマンド、配信型の研修なども研修目的に合わせての選択ができるとよいという声があった。 2 臨地実習を受けられていない新卒新人への教育環境の整備と研修について ・看護学生のリモート学習の状況、病院の実習事情について共有し、実習に行くことができていない新卒新人は、臨床とのギャップが大きいと予測される。 ・通年、新人看護職員は毎年の春と秋のフレッシュセミナーで他者と交流し同期とのモチベーションアップにつながっていることを改めて共有し、研修の必要性を確認した。感染拡大により研修開催が難しい環境ではあるが、工夫しながら研修開催が出来るとよい。 ・実地指導者研修会の開催時期は例年9月と11月であるが、今年度の実習背景から基礎教育事情などを内容に盛り込んでいただくと現場での教育にもつながる。 3 看護管理者サードレベル開講ニーズ調査について ・サードレベルのアンケート調査について検討し、調査方法、実施予定、質問項目を作成した。令和3年度の看護実態調査の質問項目に入れてもらう。

今後の課題	<ul style="list-style-type: none">・研修全体の受講スタイルが変更し、Web 研修の受講となっている。受講生の反応を確認していく。・臨地実習に行くことができなかった新卒新人の就業後の状況などの意見交換を行う。・新しい研修スタイルの運営や方法について検討する。・サードレベル開講ニーズ調査を実施し、結果は令和4年度に検討を予定とする。
-------	---

労働環境改善委員会

委員長 遠山 美智子

所掌事務	働き続けられる職場環境づくりの推進に関すること
諮問事項	働き続けられる職場環境づくりを推進するための戦略 <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルシーワークプレイスの推進 ・潜在看護職員等の再就業支援
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルシーワークプレイスの推進 現状-離職理由に挙げられることとして人間関係及びハラスメントが多い。 課題-大規模病院では自施設でマニュアルを作り、対応できる環境が整っている所が多いが、研修等に人を出しにくい中小規模病院や、クリニックなどの看護管理者、スタッフが解決に困難さを感じている。 ・潜在看護職員等の再就業支援 現状-ブランクの長い看護職の再就業は、技術面及び本人の意識と現状の乖離が大きい事があり、就業を躊躇う要素になっている。 課題- ブランクがあっても復帰を躊躇しない為の環境づくり
検討内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルシーワークプレイスは職場環境を整えると共に、自身の健康を守ることにより、よい看護を持続的に提供し続ける状況を作る事を目指している。その実現の為に、中小規模病院の管理者および全施設スタッフへヘルシーワークプレイスの情報・知識の周知方法を提案する。 ・ブランクが長くなるほど復帰へのハードルも高くなる。基礎技術の研修の充実も含め、復帰する為の具体的な段階を提示し、現場を離れた看護職が戻る為のハードルを下げる環境を整える。
検討結果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地区部会の研修会プログラム（中小規模病院の管理者および全職員対象）への組み込みの提案 — パワハラに対応するもの 2. 全施設を対象としたオンライン研修（管理者対象）の企画を提案 — 問題行動を起こす職員の対応 3. 協会での10日間等の連続した技術研修を行い、修了時にはレベルを評価し、県内施設にそれを周知、採用時に活用してもらおう。就業マッチングの際にも、それを活かしていく仕組みを作る。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・中小規模病院看護管理者へのヘルシーワークプレイス周知方法の提案 ・潜在看護師への技術研修方法の提案

医療安全委員会

委員長 久保 ひろみ

所掌事務	安全で安心な職場環境づくりの推進に関すること
諮問事項	安全な看護を提供するための組織的な推進戦略 <ul style="list-style-type: none"> ・組織で取り組む安全文化の醸成 ・チーム医療推進のための行政、関係機関・関係職種との連携
現状と課題	現状 医療安全推進の組織的な取り組み推進への検討 課題 <ol style="list-style-type: none"> 1 コロナ禍における組織で取り組む医療安全文化の醸成 2 地区別・施設規模別での医療安全活動課題を明らかにし、各地区のネットワーク推進と今後の研修活動を支援する。 3 医療安全推進のための行政及び関係機関との連携
検討内容	検討内容・過程 <ol style="list-style-type: none"> 1 前年度から継続課題であったネットワーク推進・地区別施設規模別の医療安全活動について、現在コロナ禍において研修会、地区部会の活動が制限されるなかでの情報収集の方策としてアンケート調査にて現状調査する。 2 諮問事項にある「医療安全活動推進のための行政、関係機関、多職種との連携」の答申にあたり、行政及び関係機関、関係職種などと医療安全情報を共有していとともに、連携への方策を検討する。
検討結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 アンケート内容を検討。 2 行政と薬剤師会関連・医師会・臨床工学技士会などとの連携方法を模索中。合同研修会や医療安全大会の共催など案としてはでている。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの実施・公表 ・アンケート結果からコロナ禍における現状を加味し、医療安全活動課題をみだし、支援方法を考える。 ・行政と薬剤師会関連・医師会・臨床工学技士会など関連職種との連携方法を考えていく。

広 報 委 員 会

委員長 伊藤 淳子

所掌事務	協会及び看護の広報に関すること
諮問事項	<p>職能団体としての魅力ある広報戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員・非会員に対する広報 ・これからの看護職を目指す者への広報 ・県民に対する広報
現状と課題	<p>『看護ちば』の企画の提案の継続、県民及び非会員の看護職に向けた新たな広報戦略の検討・提案をしてきた。</p> <p>今後も実現に向け、新たな広報活動について提案していく。</p>
検討内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 広報誌『看護ちば』の企画等の提案 2 新たな広報戦略・手段の検討 3 ホームページの評価
検討結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 広報誌『看護ちば』の企画等の提案 リニューアル（136号）に向けた提案 <ul style="list-style-type: none"> ・専門看護師によるフィジカルアセスメント（新シリーズ） ・トピックスのテーマ 2 新たな広報戦略・手段の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・バス広告、つり革広告等の活用 ・デジタルサイネージの活用 ・YouTube や TikTok 等（動画）の活用 ・病院や薬局の待合のディスプレイや掲示板等の活用 3 ホームページの充実 <ol style="list-style-type: none"> 1) アクセスレポートの分析（興味があると思われるページの充実） 2) 動画の活用 <ul style="list-style-type: none"> 一般他向け：会長あいさつ、協会 PR、協会活動ダイジェスト（地区のまちの保健室、学校での講師や、地域への参画等） 会員向け：手技、看護ちば、研修等（短時間のもの） 非会員向け：期間限定で会員向けの一部を公開 3) その他 <ul style="list-style-type: none"> トップページのスライド画面の活用 4 SNS の導入 <ul style="list-style-type: none"> フェイスブック、ツイッター等 5 入会促進に係る広報 <ol style="list-style-type: none"> 1) 生涯教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・受講者向けカテゴリーの見直し ・専門分野の研修（災害、救急）の増加 ・産休・育休中の会員向け研修の検討（退会させない） 2) 入会手続き・年会費納入の案内 <ul style="list-style-type: none"> ・新規入会者への手続き・会費納入に関する案内 3) 会員福利厚生（クラブオフ等）の情報発信
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな広報戦略等を実現するため、予算等も念頭においた提案 ・看護ちばの掲載内容の提案

会員増促進委員会

委員長 神明 直美

所掌事務	会員増の促進に関すること
諮問事項	<p>会員を増やすための戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員増の具体的方策 ・会員増を考慮した協会事業の進め方
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・准看護師・保健師の入会率が低い ・20代から40代前半の入会率の低下 ・地域別入会率の格差 ・福祉施設の入会率の低さ
検討内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 PRターゲットの検討 2 地区別入会状況（入会率）の確認 3 入会促進に関するアプローチ方法の検討（地域別・領域Ⅱ） 4 新規入会者増加の検討 5 育休中の退会、防止対策について
検討結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 PRターゲットの検討 准看護師、保健師、育休中の会員に向けてアプローチをする。 2 地区別入会状況（入会率）の確認 令和元年度の地区別入会状況（入会率）は、平均48.1%。会員数は、前年度より2.7ポイント増加していた。山武地区が一番上昇していた。 3 入会促進に関するアプローチ方法の検討（地域別・領域Ⅱ） 入会率の高い地区や保健師の入会率の高い地区へ情報収集し、会員確保の成功事例を分析する。次年度の検討課題とする。 看護師職能領域Ⅱで発行している広報誌に委員会からのメッセージを掲載。次年度、発行後の評価を行う。 4 新規入会者増加の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・現場のニーズについて情報収集をする。 ・ホームページの活用、内容の充実を提案での情報発信 ・会員が閲覧できる内容を多くし、会員と非会員の差別化を図る。 ・ホームページの利用状況について、情報発信方法について確認をする。 ・研修やイベント時に、スクリーンに会員募集のメッセージを流す。 5 育休中の退会、防止対策について <ul style="list-style-type: none"> ・育休中の会員に向けては、所属の看護管理者へ育休中でも退会しないように働きかけてもらう。会員個人向けには、ホームページ等で情報発信をする。 ・育休中や子育て中の会員に向けて、子育てや生活に役立つ情報発信をする。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・領域Ⅰ・Ⅱへの会員を増やすアプローチ ・入会率の高い地区や保健師の入会率の高い地区への情報収集と分析、方策検討

看護研究委員会

委員長 高柴 律子

所掌事務	看護研究に関すること
諮問事項	<p>看護研究の在り方を見据えた看護研究の発展戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護研究学会の活性化 ・看護研究を推進するための環境づくりへの支援 <p>(看護研究倫理委員会設置を含む)</p>
現状と課題	<p>千葉県看護研究学会は看護実践の質を高めること、また、その方法の一つとして研究に看護職が慣れ親しむ機会とすることを目的としている。そのため、より多くの看護職が取り組みやすいシステムや環境づくりが必要であり、そのサポートが重要である。</p>
検討内容	<p>令和2年度は5回開催し、うち2回はオンラインで開催した。第39回千葉県看護研究学会の日程が決定したので、諮問事項について今年度と次年度以降に検討する内容を整理した。今年度は、以下の2点に焦点を当て取り組むこととした。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護研究学会を活性するために、「実践報告」と「交流集会」の追加について 2 看護研究を推進するための環境づくりの1つの対応策として看護研究倫理委員会の設置について
検討結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 看護研究学会を活性化 <ol style="list-style-type: none"> 1) 研究学会の演題内容に「看護研究報告」の他に「実践報告」「交流集会」を追加するため、「千葉県看護研究学会演題募集要項(案)」を作成した。但し、「交流集会」の具体的な運用方法までは検討できていない。さらに、演題登録も集録ではなく抄録に変更した。 2) 日本看護学会規程が改正されたため、千葉県看護研究学会規程の見直しを行った。 2 研究を推進するための環境づくり <p>研究倫理審査委員会の設置されていない施設の依頼に基づいて「千葉県看護協会 看護研究委員会 研究倫理審査小委員会、規程(案)」を作成した。</p> <p>1・2共に作成した(案)を看護協会に提案した。</p>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県看護協会に提出した検討結果を基に周知の方向で検討する。 ・「交流集会」の具体的な運用方法について検討する。

災害対策委員会

委員長 鈴木 美智子

所掌事務	災害救護対策に関すること
諮問事項	<p>迅速かつ円滑な災害支援対策に関する推進戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行政・他団体との連携強化 ・ 災害支援ナースの育成と登録者数の増加
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時には県庁内の災害対策本部に千葉県看護協会長が参加している。 ・ 電力の供給不足に伴い通信方法に制限がある。 ・ 災害支援ナースの実践活動が周知されていない。 ・ 現在の「災害救護マニュアル」は災害支援ナースに関する情報と看護協会としての災害対策部分が混在している。 ・ 災害発生時に、該当地域の地区部会がどこにどのように情報を上げていけば良いのか不明確である。
検討内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 迅速な災害支援を行うためには、情報提供や情報共有の方法をどのように行うことが望ましいか。 2 内発的動機付けをもって災害支援ナースの登録数が増加し、身分の保障をもって安心して支援活動が実践できるための方策
検討結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 災害救護マニュアルの見直し <ul style="list-style-type: none"> ・ 千葉県看護協会は被災した看護職員の支援を中心に千葉県庁の災害対策本部とどのように連携するかを追加する。 ・ 地区部会と県協会と県庁がどのような仕組みで情報共有や提供を行うかを追加する。 2 災害への危機意識の強化と団結力による安心の提供を広報していく。 3 身分保障に関する制度を整え情報提供する。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害対策マニュアル（災害救護マニュアル）の再考（千葉県、医師会ほか災害支援に係る団体との整合性） ・ 現職の看護職員はもとより、これから看護師を目指す看護学生や高校生に災害支援ナースの活動を広報する。 ・ 自助、共助、公助の視点から、県内の看護管理者はじめ看護職員に災害に対する意識を高めるための研修内容を検討する。

推 薦 委 員 会

委員長 青田 孝子

所掌事務	役員等・推薦委員候補者及び職能委員の推薦
諮問事項	<p>改選役員等・委員等の推薦</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 改選役員、推薦役員、職能委員候補者の推薦 2 公益社団法人日本看護協会通常総会代議員等候補者の推薦
現状と課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 2021年度に改選する新規役員（理事2名、保健師職能委員3名、助産師職能委員1名、看護師職能委員〈領域Ⅰ〉2名、〈領域Ⅱ〉1名、推薦委員7名）について推薦する。 2 2022年度公益社団法人日本看護協会総会代議員は28名で、代議員・予備代議員候補者合計58名を推薦する。
検討内容	<p>〔検討内容・過程〕</p> <p>諮問事項について年間計画を立案し、役割分担を進めた。協会の協力を得て、各役割の委員会等の業務内容・開催回数を確認した。人選の際は、継続する委員の意向と地区を確認し、地域が偏らないように配慮した。その後、役割分担の進捗状況一覧表を作成し、メールで情報共有しながら人選を行った。</p> <p>〔委員会開催状況：6回開催（別紙に詳細を記載）〕</p>
検討結果	<p>2021年度の改選は理事2名、職能委員8名、推薦委員7名の推薦となった。6回の委員会開催とメールでの情報共有の結果、3月までに人選することができた。なお改選のうち1名については、継続意向確認時に辞退となり急遽、追加推薦となった。</p>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・役員・委員は地区で偏らないことが求められており、職種別の看護協会会員の分布がわかると、地域を考慮した推薦が行いやすい。また役職がわかるとなお良い。 ・准看護師は看護協会会員が少なく、准看護師会員のいる施設情報があると依頼しやすい。 ・転勤や人事異動が、3月迄分からないので最終決定できないことがある。 ・Web開催に第4回委員会から変更となったが、第3回まで対面での委員会開催ができていたため意思伝達や検討等支障なく実施できた。今後も初回開催時は対面開催することで、その後の検討等がスムーズに運ぶと思われる。

参 考 資 料

令和3年度 千葉県看護協会会長表彰	125
看護職員の表彰	129
令和2年度 施設等会員代表者会報告	130
令和2年度 地区部会報告	131
令和2年度 特別委員会報告	132
令和2年度 日本看護協会関係報告	135
I 教育・研修等による看護の質の向上に関する事業	139
1 生涯教育	139
II 看護師等の労働環境等の改善、就業促進等による 看護師等の人材確保・定着に関する事業	141
1 看護進路相談事業	141
2 ナースセンター事業	142
3 医療・看護における安全対策	159
IV 県民への健康・福祉の増進に関する事業	161
1 「看護の日」「看護週間」事業	161
2 自殺予防対策事業	162
3 千葉県小児救急電話相談事業	164
VI 指定居宅サービス、居宅介護支援に関する事業並びに訪問看護の実施に関する事業	165
1 訪問看護及び居宅介護支援事業実績	165
VII その他、この法人の目的を達成するために必要な事業	167
1 令和2年度 地区部会活動事業報告	167
要望書	168
令和2年度 県・市町村及び関係団体の委員等受託状況一覧	182
令和2年度 各種団体の実施する行事への後援・協賛等実績一覧	186
名誉会員	187
令和2年度 役員・委員・地区部会役員名簿	188
令和2年度 地区・職能別入会状況・入会率	199
年度別会員数	200
地区部会区分図	201
公益社団法人千葉県看護協会 組織機構図	202
公益社団法人千葉県看護協会 組織運営図	203
公益社団法人千葉県看護協会 業務体制	204
定 款	205
看護職の倫理綱領	218

令和3年度 千葉県看護協会会長表彰

氏名	施設名
小川 美恵子	千葉大学医学部附属病院
村松 由加	千葉大学医学部附属病院
林 弥生	千葉大学医学部附属病院
齋藤 陽子	千葉大学医学部附属病院
稲田 照美	千葉大学医学部附属病院
渡邊 光子	千葉大学医学部附属病院
宮下 浩子	千葉大学医学部附属病院
加瀬 美保	千葉大学医学部附属病院
大槻 美和	千葉大学医学部附属病院
板倉 史枝	独立行政法人国立病院機構千葉医療センター
山崎 有美	独立行政法人国立病院機構千葉医療センター
木内 裕子	独立行政法人国立病院機構千葉医療センター
清水 里枝	千葉市立青葉病院
野口 恵	千葉市立青葉病院
齋藤 久里子	千葉市立青葉病院
富塚 弓子	千葉市立青葉病院
中島 久美	千葉市立青葉病院
大沼 夏紀	千葉市立青葉病院
菅谷 リカ	千葉市立青葉病院
菅野 利良	千葉市立青葉病院
小山 順子	千葉市立青葉病院
高橋 真弓	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構QST病院
岩 永 薫	千葉県救急医療センター
甲斐 晃子	千葉県救急医療センター
藤原 奈央	千葉県がんセンター
越智 史子	千葉県がんセンター
脊黒 ゆかり	千葉県がんセンター
鈴木 千鶴子	千葉県がんセンター
工藤 恵	千葉県がんセンター
山口 梢	千葉県がんセンター
安藤 伊子	千葉県がんセンター
山本 有紀	千葉県がんセンター
松本 里枝	千葉県がんセンター
河原崎 祥子	千葉県がんセンター
樋口 こず絵	千葉県がんセンター
平井 龍生	千葉県がんセンター
齊藤 昭子	独立行政法人国立病院機構千葉東病院
安藤 昌子	独立行政法人地域医療機能推進機構千葉病院
牧野 真由美	独立行政法人地域医療機能推進機構千葉病院
田代 紀子	独立行政法人地域医療機能推進機構千葉病院

氏名	施設名
石井 綾	独立行政法人地域医療機能推進機構千葉病院
水澤 里美	医療法人社団誠馨会千葉メディカルセンター
菅 あずみ	医療法人社団誠馨会千葉メディカルセンター
大塚 奈保子	独立行政法人国立病院機構下総精神医療センター
宮崎 恵美	千葉県千葉リハビリテーションセンター
柳 八江	独立行政法人労働者健康安全機構千葉労災看護専門学校
若園 愛枝	独立行政法人労働者健康安全機構千葉労災看護専門学校
山本 節子	市原市役所
五十嵐 香代子	社会福祉法人恩賜財団済生会千葉県済生会習志野病院
石田 麻里	社会福祉法人恩賜財団済生会千葉県済生会習志野病院
荒川 久美子	社会福祉法人恩賜財団済生会千葉県済生会習志野病院
小杉 裕子	社会福祉法人恩賜財団済生会千葉県済生会習志野病院
伊藤 しのぶ	社会福祉法人恩賜財団済生会千葉県済生会習志野病院
田中 房美	独立行政法人地域医療機能推進機構船橋中央病院
上野 恵子	独立行政法人地域医療機能推進機構船橋中央病院
鋤柄 由希子	独立行政法人地域医療機能推進機構船橋中央病院
池田 真美子	独立行政法人地域医療機能推進機構船橋中央病院
飯塚 直子	国立研究開発法人国立国際医療研究センター国府台病院
佐藤 あゆみ	国立研究開発法人国立国際医療研究センター国府台病院
仙野 真由	東京歯科大学市川総合病院
宮崎 恵里子	東京歯科大学市川総合病院
内田 秀子	公益社団法人地域医療振興協会東京ベイ・浦安市川医療センター
野々村 亜津子	松戸市立総合医療センター
青木 陽子	松戸市立総合医療センター
須藤 友美	松戸市立総合医療センター
三好 利絵子	松戸市立総合医療センター
荒川 樹子	松戸市立総合医療センター
林 優子	松戸市立総合医療センター
平澤 幸子	松戸市立総合医療センター
篠宮 陽子	松戸市立総合医療センター
秋山 純子	松戸市立総合医療センター
木村 絹子	松戸市立総合医療センター
大塚 やよい	キッコーマン総合病院
桐原 英理奈	キッコーマン総合病院
小林 智子	キッコーマン総合病院
小名木 靖子	成田赤十字病院
池田 俊江	成田赤十字病院
白石 香織	成田赤十字病院
長谷川 綾子	成田赤十字病院
深作 はるな	成田赤十字病院

氏名	施設名
田 仲 幸子	成田赤十字病院
高花 久美子	成田赤十字病院
佐藤 真美子	成田赤十字病院
佐々木 香	成田赤十字病院
栗山 秀子	成田赤十字病院
清水 美奈	成田赤十字病院
根本 里美	成田赤十字病院
青木 佐紀子	社会福祉法人聖隷福祉事業団聖隷佐倉市民病院
戸来 瑞希	社会福祉法人聖隷福祉事業団聖隷佐倉市民病院
中谷 知世	医療法人積仁会島田総合病院
糸川 貴子	医療法人積仁会島田総合病院
江口 和美	医療法人積仁会島田総合病院
石橋 晴美	千葉県立佐原病院
佐々木奈緒美	千葉県立佐原病院
羽鳥 智子	千葉県立佐原病院
大木 美恵子	地方独立行政法人総合病院国保旭中央病院
小川 浩子	地方独立行政法人総合病院国保旭中央病院
関 有子	地方独立行政法人総合病院国保旭中央病院
山口 房恵	地方独立行政法人総合病院国保旭中央病院
関 美津子	地方独立行政法人総合病院国保旭中央病院
石田 美枝	地方独立行政法人総合病院国保旭中央病院
小原 真理	地方独立行政法人総合病院国保旭中央病院
小西 陽子	地方独立行政法人総合病院国保旭中央病院
山崎 久美子	国保匝瑳市民病院
林 佐智代	国保匝瑳市民病院
菅澤 典子	国保多古中央病院
鹿嶋 伸江	国保多古中央病院
高木 弘美	国保多古中央病院
中村 珠恵	国保多古中央病院
石井 清美	香取おみがわ医療センター
渡辺 智紀	香取おみがわ医療センター
大竹 久美子	横芝光町役場
成嶋 清美	公立長生病院
目良 綾子	公立長生病院
榎本 とし子	公立長生病院
高知尾 明子	公立長生病院
春藤 洋子	いすみ医療センター
吉原 悦子	いすみ医療センター
吉野 清美	いすみ医療センター
三枝 あけみ	国保直営総合病院君津中央病院

氏名	施設名
笹生 文子	国保直営総合病院君津中央病院
今野 日登美	国保直営総合病院君津中央病院
北 清美	国保直営総合病院君津中央病院
根本 香織	国保直営総合病院君津中央病院
伊藤 千穂	国保直営総合病院君津中央病院
石橋 純子	国保直営総合病院君津中央病院
中島 邦代	国保直営総合病院君津中央病院
佐々木あゆみ	国保直営総合病院君津中央病院
増田 妙子	国保直営総合病院君津中央病院
齊藤 彩子	国保直営総合病院君津中央病院
千葉 ひとみ	国保直営総合病院君津中央病院
小松 麻衣子	国保直営総合病院君津中央病院
和田 加寿子	国保直営総合病院君津中央病院
飯田 英江	国保直営総合病院君津中央病院
高梨 敬子	国保直営総合病院君津中央病院
木場迫 美子	国保直営総合病院君津中央病院
鈴木 紀子	医療法人社団養真会上総記念病院
佐藤 正子	医療法人社団養真会上総記念病院
朝生 孝子	国保直営君津中央病院大佐和分院
伊丹 輝美	社会福祉法人太陽会安房地域医療センター
青木 友里江	社会福祉法人太陽会安房地域医療センター
田邊 悦子	社会福祉法人太陽会安房地域医療センター
石井 昭子	社会福祉法人太陽会安房地域医療センター
鈴木 幸恵	社会福祉法人太陽会安房地域医療センター
中山 さゆり	社会福祉法人太陽会安房地域医療センター
川邊 由美子	医療法人鉄蕉会亀田総合病院
近藤 広美	医療法人鉄蕉会亀田総合病院
堀越 智子	医療法人鉄蕉会亀田総合病院
村川 真澄	医療法人鉄蕉会亀田総合病院
井野 友美子	医療法人鉄蕉会亀田総合病院
高重 由美	医療法人鉄蕉会亀田総合病院
石井 麻由美	医療法人鉄蕉会亀田総合病院
川上 由美	医療法人鉄蕉会亀田総合病院
入月 修司	医療法人鉄蕉会亀田総合病院
渡邊 直樹	医療法人鉄蕉会亀田総合病院
樋口 知子	医療法人鉄蕉会亀田総合病院
高橋 友恵	学校法人鉄蕉館亀田医療技術専門学校
青木 富士子	公益財団法人日産厚生会佐倉厚生園病院
振屋 尚子	公益財団法人日産厚生会佐倉厚生園病院
日向 早苗	医療法人社団協友会船橋総合病院

氏名	施設名
寺内 智賀子	医療法人社団徳風会高根病院
大港 淳子	船橋市立医療センター
野間 弘子	船橋市立医療センター
大谷 知子	船橋市立医療センター
内藤 晶栄	船橋市立医療センター
藤田 洋子	船橋市立医療センター
中山 愛	船橋市立医療センター
深澤 里佳	船橋市立医療センター
大嶋 裕美	船橋市立医療センター
大谷 洋子	医療法人財団東京勤労者医療会東葛病院
佐々木 潤子	自動車事故対策機構千葉療護センター
川名 美雪	医療法人明星会東条病院
今居 恭子	順天堂大学医学部附属浦安病院
高橋 祐美子	順天堂大学医学部附属浦安病院
澤井 香子	順天堂大学医学部附属浦安病院
堀内 奈美	順天堂大学医学部附属浦安病院
増間 志穂	順天堂大学医学部附属浦安病院
松岡 みどり	順天堂大学医学部附属浦安病院
大竹 真由美	順天堂大学医学部附属浦安病院
熊谷 昌代	順天堂大学医学部附属浦安病院
橋本 理恵	千葉市立海浜病院
高石 光子	千葉市立海浜病院
松本 修子	千葉市立海浜病院
武田 安雲野	千葉市立海浜病院
谷 美行	特定医療法人新都市医療研究会君津会玄々堂君津病院
中谷 美砂	特定医療法人新都市医療研究会君津会玄々堂君津病院
松本 美香	特定医療法人新都市医療研究会君津会玄々堂君津病院
建部 瑞世	医療法人緑栄会三愛記念病院
森下 美恵	医療法人芙蓉会五井病院
矢野 裕絵	千葉県精神科医療センター
山口 光子	医療法人社団圭春会小張総合病院
紺野 美晴	医療法人社団圭春会小張総合病院
土井 こづえ	医療法人SHIODA塩田病院
岩田 きよの	医療法人SHIODA塩田病院
清水 美登里	帝京大学ちば総合医療センター
坪 昌恵	帝京大学ちば総合医療センター
岡田 美奈子	帝京大学ちば総合医療センター
小駒 三千代	帝京大学ちば総合医療センター
塚越 美典	帝京大学ちば総合医療センター
濱田 優美	帝京大学ちば総合医療センター

氏名	施設名
高野 美菜	東京慈恵会医科大学附属柏病院
荒井 賞枝	東京慈恵会医科大学附属柏病院
小林 恵美	東京慈恵会医科大学附属柏病院
今別府 めぐみ	東京慈恵会医科大学附属柏病院
徳本 直子	東京慈恵会医科大学附属柏病院
小泉 麻里	東京慈恵会医科大学附属柏病院
溝口 幸子	東京慈恵会医科大学附属柏病院
富士田 恭子	東京慈恵会医科大学附属柏病院
植田 智子	東京慈恵会医科大学附属柏病院
高橋 京子	東京慈恵会医科大学附属柏病院
吉井 利江	医療法人鎗田病院
高石 好江	医療法人鎗田病院
石渡 聖子	医療法人鎗田病院
大野 昭子	医療法人鎗田病院
片山 聡美	医療法人鎗田病院
村吉 竹美	医療法人社団有相会最成病院
鴫田 佳容子	医療法人社団有相会最成病院
大野 恵子	医療法人社団有相会最成病院
内山 きえ子	医療法人社団有相会最成病院
青野 しげり	医療法人社団有相会最成病院
田村 みな子	医療法人社団有相会最成病院
田家 好美	医療法人社団誠馨会総泉病院
三河 隆子	医療法人三省会本多病院
石井 朋美	医療法人社団鵬会高名清養病院
日向 明美	医療法人社団創進会みつわ台総合病院
船岡 三枝子	医療法人社団創進会みつわ台総合病院
勝村 美和	医療法人社団創進会みつわ台総合病院
緑川 由貴子	医療法人社団創進会みつわ台総合病院
高橋 郁子	医療法人社団創進会みつわ台総合病院
石井 ひろみ	医療法人社団創造会平和台病院
高橋 いずみ	医療法人社団青嶺会松戸整形外科病院
三友 雅子	東邦大学医療センター佐倉病院
浅川 園	医療法人社団紫雲会千葉南病院
浦辺 友美	医療法人社団紫雲会千葉南病院
秋元 京美	国立研究開発法人国立がん研究センター東病院
三田 玲子	公益財団法人柏市医療公社柏市立柏病院
山口 美和	公益財団法人柏市医療公社柏市立柏病院
鈴木 千賀子	日本医科大学千葉北総病院
小泉 はるか	日本医科大学千葉北総病院
前田 容子	日本医科大学千葉北総病院

氏名	施設名
齋藤 みどり	日本医科大学千葉北総病院
平田 貴和子	日本医科大学千葉北総病院
山下 小百合	社会医療法人社団千葉県勤労者医療協会てんだい訪問看護ステーション
鈴木 理恵子	医療法人社団曙会流山中央病院
浅野 朋子	介護老健施設シルバーハピネス
石井 千恵	千葉県循環器病センター
片岡 晴美	千葉県循環器病センター
石川 祐寿	千葉県循環器病センター
鳥海 リカ子	千葉県循環器病センター
佐脇 僚子	千葉県循環器病センター
佐藤 恵	千葉県循環器病センター
鈴木 諭子	千葉県循環器病センター
大塚 モエミ	千葉県循環器病センター
平田 明美	千葉県循環器病センター
石井 久美子	訪問看護ステーションたてやま
柴田 浩子	一般財団法人銚子市医療公社銚子市立病院
加瀬 啓子	匝瑳市訪問看護ステーションつばきの里
大島 庸子	公益財団法人柏市医療公社柏市立介護老人保健施設はみんぐ
井上 千鶴代	医療法人社団誠馨会セコメディック病院
東 麻巳	医療法人社団誠馨会セコメディック病院
山下 恵子	地方独立行政法人東金九十九里地域医療センター東千葉メディカルセンター
石井 枝里咲	地方独立行政法人東金九十九里地域医療センター東千葉メディカルセンター
菅原 友子	医療法人社団錦昌会みどりのは葉記念病院
石川 久美子	医療法人社団誠高会おたかの森病院
岸 恵美子	千葉県健康福祉部健康づくり支援課
青野 芳子	医療法人社団クレドさとうクリニック
山崎 ゆかり	医療法人沖縄徳洲会鎌ヶ谷総合病院
篠塚 あゆみ	医療法人明柳会恩田第2病院
松田 美恵	医療法人社団誠馨会新東京クリニック
石井 絵里奈	一般社団法人巨樹の会千葉みどりリハビリテーション病院
伊藤 由里	医療法人社団鼎会三和病院
阿部 美智子	医療法人社団鼎会三和病院
林 ひろみ	東邦大学健康科学部看護学科
杉田 浩美	個人会員
宮崎 邦子	個人会員
橋本 恵美子	個人会員
糸川 真紀	個人会員
日下 由美	個人会員
小久保 智子	個人会員
夏村 真奈巳	個人会員

氏名	施設名
石井 智子	個人会員

計 281 名

(敬称略)

看護職員の表彰

1 叙勲その他国の表彰

令和2年 秋の叙勲

瑞宝双光章 今野 恵美子 元千葉市立海浜病院 看護部長

令和3年 春の叙勲

瑞宝双光章 中村 正美 元(独)国立病院機構水戸医療センター 看護部長

瑞宝双光章 小島 英子 元初富保健病院 看護部長

令和2年度 公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰

市川 滋子 千葉県山武保健所(山武健康福祉センター)

2 令和3年度 日本看護協会長表彰

石原 照子 医療法人社団明生会

内山 弘子 公益社団法人千葉県看護協会

田家 好美 医療法人社団誠馨会 総泉病院

藤枝 純子 元公益社団法人千葉県看護協会

山崎 潤子 緑が丘訪問看護ステーション

施設等会員代表者会報告

専務理事 井上 恵子

回数	開催日	場所	内容
第1回	1月28日	Web開催	<p>議 事</p> <ul style="list-style-type: none">・令和2年度事業の進捗状況について・令和3年度重点事業について <p>パネルディスカッション 「新型コロナウイルス感染症時代における 新人看護職の人材育成」</p> <p>【看護師等学校養成所】 千葉県立保健医療大学健康科学部 学部長 石井邦子 氏 千葉県看護学校協議会 千葉県立野田看護専門学校第二看護学科 准教授（兼）学科長 土井恵子 氏</p> <p>【医療機関】 船橋市立医療センター 教育担当看護師長 大木千春 氏</p>

地区部会報告

専務理事 井上 恵子

I 地区部会長会

回数	開催日	内 容
第1回	7月28日	I 議題 1 令和2年度千葉県看護協会の体制について 1) 千葉県看護協会定款について 2) 千葉県看護協会の組織・運営について (1) 組織機構図について(2)組織運営図について (3) 役員の職務と担当職域について (4) 理事・監事事務分掌について(5)事務局体制について 3) 事業計画・年間計画について 2 地区部会活動について 1) 地区部会活動の役割等について 2) 地区部会活動に関する事務処理等について 3) 令和元年度地区部会活動報告について 4) 令和2年度地区部会活動年間事業計画について 3 今後の地区部会活動について II その他 1 協会からの連絡事項 1) 各施設の Web 会議環境の有無について
第2回 (Web)	2月18日	I 議題 1 令和3年度 千葉県看護協会重点事業について 2 地区部会の目的・役割等について 3 令和2年度地区部会活動報告(地区の現状、情報交換等) 4 今後の提出書類等について 5 その他(医療安全担当者地区交流会について等)

II 地区部会会計に係る説明会

回数	開催日	内 容
書面	6月	送付資料 1 定款及び関連諸規定 2 地区部会関係規程 3 会計に関する注意事項について 4 過去の説明会での質疑応答 5 領収書伝票(研修会資料代用)

特別委員会報告

ナースセンター運営委員会

委員長 寺口 恵子

本委員会は、「看護師等の人材確保の促進に関する法律」第15条の規定に基づいたナースセンター事業について協議することを目的として設置されている。

本年度は14名の委員で、委員会は1回開催した。

議事及び意見は下記のとおりである。

【ナースセンター運営委員会 1回開催】

議事

- 1 令和元年度千葉県ナースセンター事業報告
- 2 令和2年度千葉県ナースセンター事業計画及び進捗状況について
- 3 令和3年度千葉県ナースセンター事業計画について
- 4 意見交換
 - ・新型コロナウイルス感染症の影響下におけるWebも活用した研修の効果的な開催方法
 - ・実習が十分に受けられないまま卒業した令和2年度新人看護職の離職防止の対策
 - ・看護学生を対象とした就職ガイダンスの開催方法
 - ・看護人材確保事業を進めていくにあたっての提案等
- 5 その他

認定看護管理者教育課程運営委員会

委員長 伊藤 隆子

本委員会は、千葉県看護協会認定看護管理者教育課程運営規程（以下運営規程）に基づき、教育課程の目的を達成するために企画運営及び修了審査に関する事項の審議機関として設置されている。

令和2年度の委員構成は、教育関係者3名、病院看護管理3名、協会関係者4名の合計10名である。委員会開催は3回で、審議・報告事項は以下のとおりである。

【第1回 令和2年10月5日】

- 1 令和2年度認定看護管理者教育課程（ファーストレベル・セカンドレベル）についての現状報告
- 2 令和2年度第20回認定看護管理者教育課程セカンドレベル（案）開催について
- 3 これからの認定看護管理者教育課程（ファーストレベル・セカンドレベル）開催について

【第2回 令和3年1月22日】

- 1 令和3年度第39回、第40回認定看護管理者教育課程ファーストレベル募集要項について
- 2 令和3年度第20回認定看護管理者教育課程セカンドレベル募集要項について

【第3回 令和3年4月26日】

- 1 令和3年度第39回認定看護管理者教育課程ファーストレベル受講生の選考・決定について
- 2 令和3年度第40回認定看護管理者教育課程ファーストレベル受講生の選考・決定について
- 3 令和3年度第20回認定看護管理者教育課程セカンドレベル受講生の選考・決定について

【令和2年度実績】

- 1 第39回ファーストレベル中止
- 2 第20回セカンドレベル中止
- 3 第19回セカンドレベル修了者の看護管理実践報告会中止

看護職定着・確保対策協議会

委員長 寺口 恵子

本協議会は、県民に安全で質の高い看護を提供するため、看護職の定着確保の推進に向け、具体的方策を検討することを目的として設置されており、10名の委員で、協議会は2回開催した。また、令和2年度は「第4次看護職定着確保推進計画」の最終年であり、計画の評価や次期計画策定に向けた検討を行うため、看護職定着確保対策協議会作業部会を設置し、10名の部会員で4回開催した。

【看護職定着・確保対策協議会 2回開催】

第1回 議事

- 1 第4次看護職定着・確保対策推進計画の評価について
- 2 第5次看護職定着・確保対策推進計画骨子案の検討について
- 3 意見交換
- 4 その他

第2回 議事

- 1 第5次看護職定着・確保対策推進計画承認について

【看護職定着確保対策協議会作業部会 4回開催】

第1回 議事

- 1 第5次千葉県看護職定着・確保対策推進計画の策定について
- 2 第4次計画の設定指標の評価について

第2回 議事

- 1 第4次計画の設定指標の評価について
- 2 第5次看護職定着・確保推進計画に向けた施策の柱の検討

第3回 議事

- 1 第5次看護職定着・確保推進計画骨子案の検討

第4回 議事

- 1 第5次看護職定着・確保推進計画骨子案の修正・検討について

日本看護協会関係報告

会長 寺口 恵子

I 法人会員会（全国）

第1回法人会員会

日時 令和2年7月31日（金）10:00～12:00

場所 JNA ホール

- 議題
- 1 次期参議院議員組織内候補者選考についての経緯
 - 2 日本看護協会と日本看護連盟との連携について
 - 3 その他

第2回法人会員会

日時 令和2年8月18日（火）15:00～17:00

場所 日本看護協会（Web会議）

- 議題
- 1 新型コロナウイルス感染症に関する人材確保について
 - ・新型コロナウイルス感染症対応における看護職員の支援
 - ・新型コロナウイルス対応における看護職員派遣のための体制整備
 - ・都道府県ナースセンターにおける看護職確保の対応状況
 - ・東京都看護協会における新型コロナウイルス感染症への対応について

第3回法人会員会

日時 令和2年11月27日（金）9:15～12:00

場所 JNA ホール（Web会議）

- 議題
- 1 令和3年度看護関係予算の概要
 - 2 看護政策の実現のために
 - 3 看護連盟との連携について
 - ・都道府県看護協会本部役員及び支部役員等へ説明
 - ・選挙活動や政治活動についての理解
 - ・一般会員への対応（協会ニュース12月号、リーフレット作成、看護連盟会員の拡大活動）

II 地区別法人会員連絡会

日時 令和2年10月29日（木）9:30～13:15

場所 ホテルオークラ新潟

【法人会員連絡会】

- 議題
- 1 関東・甲信越地区法人より出された検討議題についての意見交換
 - ・リモート研修について
 - ・新型コロナウイルス感染症に係る収益安定のための取組状況について
 - ・会員の少ない施設に対する会員増の方策について
 - ・次年度研修における法人会共有のWeb研修の実施について
 - 2 法人会員連絡会当番都県等の決定

【法人会員会】

- 議題
- 1 2040年を見据えた看護のあり方について
 - 2 看護師の継続教育のあり方について
 - 3 その他

Ⅲ 職能委員会

1 令和2年度 全国職能委員長会

1) 令和2年度第1回全国職能委員長会

〈保健師職能委員長会〉

〈助産師職能委員長会〉

〈看護師職能委員長会Ⅰ 病院領域〉

〈看護師職能委員長会Ⅱ 介護・福祉関係施設・在宅等領域〉

掲載期間 令和2年8月～令和2年9月30日(水)

キャリアナースに掲載

2) 令和2年度第2回全国職能委員長会

〈全体会〉

視聴期間 令和3年2月25日(木)～令和3年3月31日(水)

キャリアナースに掲載

(1) 会長挨拶

(2) 令和2年度日本看護協会重点事業報告

令和3年度日本看護協会重点政策・重点事業

(3) 新型コロナウイルス感染症における日本看護協会の取り組み

(4) 令和2年度3職能4委員会活動報告

〈保健師職能委員長会〉

日時 令和3年3月11日(木) 14:00～17:00

方法 Web会議

(1) 委員長 挨拶

(2) 報告「2020年度活動報告、2021年度活動方針」

(3) 報告「2020年度関連事業報告、2021年度関連事業」

(4) 講演「クラスター対策における保健所の対応について」

(5) 講演「コロナ禍における医療機関の取り組みについて」

(6) グループ討議

テーマ「新型コロナウイルス感染症における自治体および医療機関の連携強化に向けて」

〈助産師職能委員長会〉

日時 令和3年3月11日(木) 10:00～13:00

方法 Web会議

(1) 委員長 挨拶

(2) 情報提供「2020年度助産師関連事業報告、2021年度助産師関連事業」

(3) 情報提供「2020年度活動報告、2021年度活動方針」

(4) 講演「都道府県看護協会 助産師職能委員長に求められる役割」

(5) 講演「『母子のための地域包括ケア病棟(仮称)』の実現にむけて」

(6) グループ討議

テーマ「医療機関における『母子のための地域包括ケア病棟(仮称)』普及・推進に向けて」

〈看護師職能委員長会Ⅰ 病院領域〉

日時 令和3年3月10日(水) 14:00～17:00

方法 Web会議

(1) 委員長 挨拶

(2) 報告「2020年度看護師職能委員会Ⅰ 病院領域 活動報告」

(3) 情報提供「2021年度看護師職能委員会Ⅰ 病院領域 の活動方針について」

- (4) グループ討議
テーマ「コロナ禍で患者・利用者・地域住民、そして職員を守るために
看護管理者が行うことは何か」

〈看護師職能委員長会Ⅱ 介護・福祉関係施設・在宅等領域〉

日 時 令和3年3月10日(水) 13:30～16:30

方 法 Web会議

- (1) 委員長 挨拶
- (2) 報告
 - ・「看護管理者に求められるリスク管理 ―新型コロナウイルス感染症への対応―
 - ・「在宅・介護領域における特定行為研修 ―受講状況、研修修了者の活動実態―
 - ・「訪問看護師倍増策の推進 ―進捗と今後の課題―
- (3) 事業報告「訪問看護を提供する医療機関と訪問看護ステーションの連携に関する委託事業について」
 - ・モデル事業概要説明
 - ・実践報告
- (4) グループ討議
テーマ「看護師職能委員会Ⅱ（介護・福祉関係施設・在宅等領域）における組織強化を考える実践報告での連携事例を受け、施設・事業所を超えて連携を強化するための方策を考える」

2 令和2年度 地区別職能委員長会（関東・甲信越地区）

日 時 令和2年10月30日(金) 13:30～16:30

場 所 Web会議

〈保健師職能委員長会〉

委員長あいさつ

- 1) 報告事項
 - (1) 保健師関連事業報告及び保健師職能委員会報告
 - (2) その他
- 2) 討議事項
 - (1) 効果的な看護職間連携の強化について
 - ① コロナ禍における連携の状況について
 - ② 生活習慣病・重症化予防における連携の状況について
 - (2) 保健師のネットワーク及び組織強化について
組織力のさらなる強化策について
 - (3) 産業保健活動に関する取り組みについて
各地の産業保健活動の現状と課題について
 - (4) その他

〈助産師職能委員長会〉

委員長あいさつ

- 1) 報告事項
 - (1) 助産師職能委員長会報告（4～9月活動報告）
 - (2) アドバンス助産師更新申請等について
 - (3) 都道府県看護協会助産師職能委員長の自己紹介
- 2) 討議事項
 - (1) 周産期における新型コロナウイルス感染症拡大時のマネジメントと産後ケア事業について
 - (2) 分娩取扱医療機関等における産科混合病棟の実態について
 - (3) 医療機関の助産師が地域で母子支援を実施するための検討
委員長まとめ

〈看護師職能委員長会Ⅰ 病院領域〉

委員長あいさつ

1) 意見交換

(1) 新型コロナウイルス感染症の対応を踏まえ、自施設及び地域の体制整備をどのように強化していくか

①地域で新型コロナウイルス感染症対応（外来での検査対応、軽症・中等症・重症患者の受け入れ）を行っていた医療機関において、人員調整や業務のマネジメントがどのように実施されていたか

②地域での看護管理者が連携して行った取り組み（例：医療機関等への感染管理認定看護師や一般看護職員の派遣調整等）

2) その他

(1) 都道府県看護協会看護師職能委員会Ⅰ 病院領域 の活動について

(2) その他

〈看護師職能委員長会Ⅱ 介護・福祉関係施設・在宅等領域〉

委員長あいさつ

1) 報告事項

看護師職能委員会Ⅱ報告（4～9月活動報告）

2) 各県からの情報提供

(1) 看護管理者に求められるリスク管理

自施設・自地域での新型コロナウイルス感染症への対応について

(2) 「在宅・介護領域における特定行為研修」

看Ⅱ領域における特定行為研修の受講の実態と、研修修了者の活動実態について

3) 意見交換

「訪問看護師倍増策の推進 ～進捗と今後の課題～」

・倍増策の概要説明及び進捗報告

・意見交換

テーマ：：医療機関からの訪問看護の現状と課題について

～訪問看護従事者を増やすために～

I 教育・研修等による看護の質の向上に関する事業

1 生涯教育

1) 目的

県民に安全で安心な専門性の高い看護を提供するため、職能団体の責任において、専門職としての生涯教育の機会を提供し看護職の資質向上を図る。

2) 実績（令和2年度 生涯教育研修 参加状況 参照）

生涯教育研修は、協会主催研修 76 コース 104 研修（うち新規 10 研修）、千葉県委託事業 9 コース 24 研修、定員 9150 人で開催予定としていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のためすべて一旦中止した。資格取得、診療報酬上必要研修、新人看護師、看護管理者対象の研修を基本に検討し、11 月より再開し 25 コース 31 研修を実施した。総受講者は 1204 人、受講率は 47.7%であった。

3) まとめ

Web 配信ライブ研修（以下 Web 研修）に切り替えるための準備に多くの時間を費やし、最低限必要であろうと思われる研修を企画し、大半の研修を Web 研修に変更して 11 月に再開した。定員に対する応募率は 56.0%（前年 89.6%）、受講率 47.7%（前年 82.3%）であり、大幅に減少した。受講率が低かった理由としては、研修の申込期間が短かったこと、臨床現場の新型コロナウイルス感染拡大による影響で研修に出すことが難しかったことなどが要因として考えられる。

会員施設において Web 環境が整わないなどの意見も多かったため、研修後アンケートを実施したところ、受講場所として職場が 53.1%、自宅が 39.1%であった。今後も新型コロナウイルス感染拡大防止のために Web 研修を行うことが想定されるため、各施設においても Web 研修を受けられる環境調整が必要であると考ええる。一方、Web 研修は遠隔地から参加がしやすいことや研修前に資料が受け取れること等の利点があり、今後は研修内容を考慮して最も効果的な研修方法を検討していきたい。

キャリア開発において有効な手段であるクリニカルラダーやマネジメントラダーを研修選択の参考として、令和元年度から導入した。アンケート結果で、受講生の 86.7%が研修を選択するうえで参考になると回答していることから、ラダー表記は有効な方法であり継続する。

令和2年度 生涯教育研修 参加状況

★千葉県委託研修

分類	ラダー	No	研修名	実施日数	研修方法	開催年月日					定員	受講者	
												受講数	受講率(%)
分類1 「生活」と保健・医療・福祉をつなぐ質の高い看護の普及に向けた継続教育	I～V	5	新型コロナウイルス感染症の現状と対応 ～知っておきたい COVID-19 の基礎知識～	0.5	Web 配信 ライブ	12/7					100	35	35.0
	II～V	11A	【JNA収録DVD研修】 認知症高齢者の看護実践に必要な知識【診療報酬加算対応】	2	対面	12/1	12/2				36	36	100
		11B	【JNA収録DVD研修】 認知症高齢者の看護実践に必要な知識【診療報酬加算対応】 WEB変更	2	Web 配信 ライブ	2021 1/6	2021 1/7				36	35	97.2
		11C	【JNA収録DVD研修】 認知症高齢者の看護実践に必要な知識【診療報酬加算対応】 WEB変更	2	Web 配信 ライブ	2021 1/12	2021 1/13				36	33	91.7
	III～V	17	令和2年度医療安全管理者養成研修会 (e-ラーニング & 集合研修)【診療報酬加算対応】	e-ラーニング41 時間、演習6時間	e-ラーニング・ Web配信ライブ						100	56	56.0
分類1 小計											308	195	63.3
分類2 JNAラダーと連動した継続教育	I～V	29A	【JNA収録DVD研修】 災害支援ナースの第一歩 ～災害看護の基本的知識～	2	対面	12/8	12/9				36	36	100
	III	30	災害医療と看護(実践編)	1	Web 配信 ライブ	2021 1/19					100	55	55.0
	V	31	災害支援ナース更新・再登録要件 講習会 WEB 変更	1	Web 配信 ライブ	2021 2/26					70	44	62.9
	II～III	32	糖尿患者のセルフケア支援 ～糖尿病の最新知識と看護～	1	Web 配信 ライブ	2021 1/26					100	25	25.0
	II～V	38	高齢者施設における感染管理	1	Web 配信 ライブ	2021 1/29					100	14	14.0
	III	46	医療安全Ⅲ ～医療事故事例を法律から見てみる～	1	Web 配信 ライブ	2021 2/5					100	23	23.0
	II	47A	リーダーを始める人のためのコーチング	1	Web 配信 ライブ	2021 2/9					100	39	39.0
	III	48	リーダーシップ研修 ～チーム力アップをめざすファンリテーションの技法～	2	Web 配信 ライブ	2021 2/16	2021 2/17				100	42	42.0
	I	53A		1	Web 配信 ライブ	12/14					300	252	84.0
		53B	フレッシュセミナー	1	Web 配信 ライブ	12/17							
		53C		1	Web 配信 ライブ	12/23							
	I	55-2	★新人看護職員研修 ～摂食・嚥下障害のある患者の食事介助・基本姿勢と態度～	1	Web 配信 ライブ	11/9					100	25	25.0
		55-4	★新人看護職員研修 ～フィジカルアセスメント～	1	Web 配信 ライブ	11/11					100	33	33.0
		57-2	★新人助産師研修 ～ハイリスク妊産婦ケア～	1	Web 配信 ライブ	11/12					20	9	45.0
		57-4	★新人助産師研修 ～新生児のフィジカルアセスメントとケア～	1	Web 配信 ライブ	11/10					20	10	50.0
	II～III	59A	★実地指導者研修	3	対面	11/24	11/25	11/26			36	28	77.8
	II	63	タイムマネジメント ～ワークもライフも生き生きと！～	1	Web 配信 ライブ	12/4					100	10	10.0
IV～V	67	これからのキャリア発達・キャリア開発を考える ～人生100年時代を見据えて～	0.5	Web 配信 ライブ	2021 2/12					100	16	16.0	
分類2 小計											1482	661	44.6
分類3 看護管理者が地域包括ケアシステムを推進するための力量形成に向けた継続教育	M-I～IV	70	看護管理者研修① 看護管理の基本と管理者の役割	0.5	Web 配信 ライブ	2021 2/1					100	78	78.0
		71	看護管理者研修② 看護管理者のための看護倫理	0.5	Web 配信 ライブ	2021 2/2					100	57	57.0
		72	看護管理者研修③ 組織管理と組織分析	0.5	Web 配信 ライブ	2021 2/2					100	57	57.0
		73	看護管理者研修④ 中途採用者の職場適応と育成	0.5	Web 配信 ライブ	2021 2/3					100	52	52.0
		74	看護管理者研修⑤ 組織運営におけるマネジメントと人材育成のためのコーチング	1.0	Web 配信 ライブ	2021 2/4					100	60	60.0
	M-I～IV	76	職場適応を支えるメンタルヘルス ～うつ・発達障害の基本的知識とその対応～	1	Web 配信 ライブ	12/11					100	17	17.0
		77	ヘルシーワークプレイス(健康で安全な職場)について学ぼう!	1	Web 配信 ライブ	2021 1/21					100	9	9.0
分類3 小計											700	330	47.1
分類4 専門能力開発を支援する教育体制の充実	III～IV	80	★教育担当者研修 5日目のみ WEB 変更	5	対面/ Web 配信 ライブ	11/18	11/19	11/21	12/22	2021 3/10	36	18	50.0
分類4 小計											36	18	50.0
分類1～分類4 合計											2526	1204	47.7
トピックス 研修	千葉県看護協会セミナー 「新型コロナウイルス感染症に対する mRNA ワクチンについて」			1	Web 配信 ライブ	2021 2/17					1000	1077	107.7
総合計											3526	2281	64.7

Ⅱ 看護師等の労働環境等の改善、就業促進等による看護師等の 人材確保・定着に関する事業

1 看護進路相談事業

【ふれあい看護体験事業】

中止

【進路相談事業】

1) ナースセンターにおける進路相談

項目	一般	高校	中学	教員	保護者	その他	計	R元年度
電話相談	13	0	0	1	3	10	27	30
面談	3	0	0	0	0	1	4	8
メール	2	0	0	0	1	0	3	5
FAX・郵便	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	18	0	0	1	4	11	34	43
R元年度	26	2	0	0	9	6	43	

まとめ：進路相談の件数は前年度より減少した。相談者種別では前年度同様「一般」が最も多く、相談内容は看護師への転向、保健師・看護師資格取得などキャリアアップ等が多い。就学資金・経済的負担に関する相談も多く、今後も必要な情報を収集しながら相談に対応する。

2) 出前授業（いのちの大切さ教育、看護職の仕事）

No	学校名	実施日	参加者数
1	我孫子二階堂高等学校	7/17	18
2	東海大学付属浦安高等学校中等部	9/5	40
3	千葉市立磯辺中学校	9/28	176
4	千葉市立稲毛中学校	9/29	205
5	千葉県立津田沼高等学校	10/26	24
6	千葉県立四街道北高等学校	11/12	27
7	千葉市立さつきが丘中学校	11/19	84
8	横芝光町立横芝中学校	11/20	104
9	横芝光町立光中学校	12/17	90
10	敬愛学園高等学校	2/17	33
合 計			801

まとめ：新型コロナウイルス感染症対策の為、外部講師の来校を制限する学校も多く、出前授業の依頼数が前年に比して半減した。一方、ふれあい看護体験事業が中止になったことから、職場見学の機会がなくなった学生の為に出前授業を依頼してきた高校もあり、「看護職の仕事」について知りたいというニーズは常にあると考えられる。実施校からは、「今時分が生きていること、産まれてきたことが奇跡なんだと思った」「看護師に対する具体的なイメージがつかめていなかったが、実際の話聞く事ができて参考になった」などの感想が多く好評で、一度実施した学校から再度依頼を受けることが多くなっている。

看護職の仕事に興味を持ってもらえる貴重な機会にもなっていると考えられるため、引き続き希望校への看護職の派遣を実施する。

2 ナースセンター事業

【看護職の職業紹介事業】

ナースセンター登録状況

1) 新規求職者数

(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
保健師	23	13	7	3	0	5	1	7	4	8	6	6	83
助産師	5	1	8	4	0	0	3	1	1	1	1	3	28
看護師	141	64	36	57	34	28	38	33	49	79	80	73	712
准看護師	6	1	5	2	1	1	0	4	2	4	6	11	43
未記入*	1	2	0	1	1	0	1	4	4	3	12	0	29
合計	176	81	56	67	36	34	43	49	60	95	105	93	895

2) 求人数

	保健師	助産師	看護師	准看護師	合計(名)
病院	0	5	462	18	485
診療所	0	2	122	21	145
訪問看護ステーション	0	0	137	3	140
介護保健施設等	6	0	207	14	227
社会福祉施設等	0	0	27	0	27
県・市町村	27	0	95	0	122
事業所等	4	0	11	0	15
学校等	0	7	24	0	31
その他	1	0	230	4	235
合計	38	14	1,315	60	1,427

(令和3年3月末現在)

まとめ：eナースセンター登録の求職者数は前年度より143名増。その主な理由は、日本看護協会から潜在看護師に向けた復職の呼びかけ、一斉メールを配信したこと、当協会のホームページによる広報により登録を勧めたことなどが考えられる。

求人数は、前年度と比べ、110名減。施設別にみると、病院237名、診療所41名、訪問看護ステーション64名減となった。新型コロナウイルス感染症の影響があったためか推移を見る必要がある。

県・市町村では97名増加し、感染症対策や新型コロナウイルスワクチン接種の求人によるものと考えられる。

【届出制度】（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

（名）

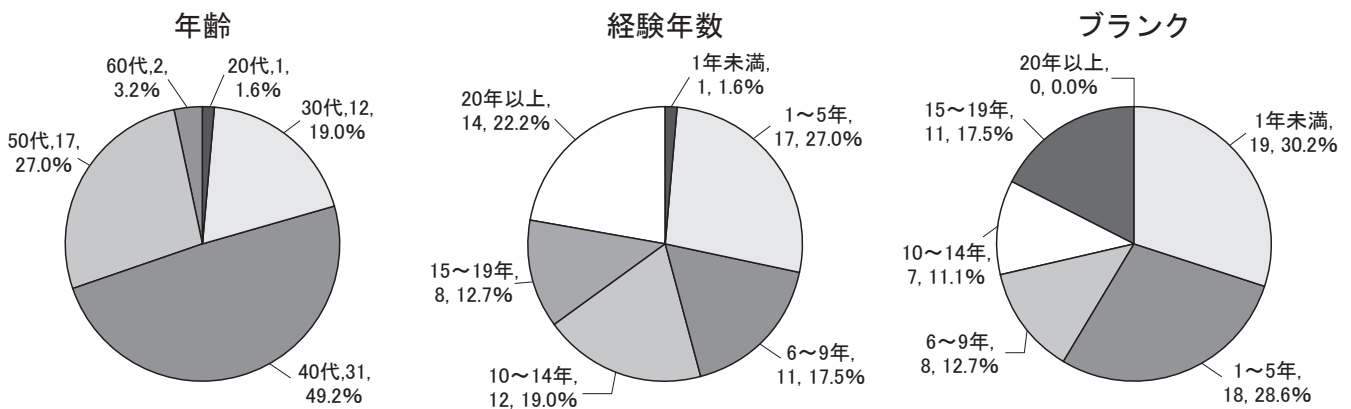
届出者 1,097（うち代行届者 689 代行届出率 62.8%）				
就業意思があると思われる者 446(40.7%)		左記以外の者 651(59.3%)		
内訳	すぐに復職したい	39	内訳	
	いずれ復職したい	94		
	未定等	313		
			就業中(看護師等)	461
			就業中(看護師以外)	30
			その他	160

まとめ：届出者数は前年度に比較し64名増加した。代行届出率は前年度（67.3%）より4.5ポイント減少し、本人届出の割合は増加傾向にある。離職した看護職が自ら届出を行いeナースセンター登録も行ってもらうよう看護管理者に働きかけ、新たに作成したりフレットの配布やホームページへの掲載などを通して啓発を強化する。

【看護基礎技術講習会】

- 1) 目的：採血・注射法、吸引についての基本的知識やシミュレーターを用いた技術演習を通して、安全に配慮した看護技術を再確認し、復職への足掛かりとする。
- 2) 参加状況：参加者 63名 就業者 26名 就業率 41.3%
- 3) 内容：採血・注射法：8月～3月実施 吸引：8月～9月実施

受講者背景



まとめ：新型コロナウイルス感染症対策のため、8月からの開催となり、開催回数も減少した。参加者の年代は、「40代」、「50代」が上位を占め、次いで「30代」となっている。経験年数は、「1～5年」、「20年以上」が上位を占め、次いで「10～14年」、「6～9年」となっている。ブランクは、「1年未満」、「1～5年」が上位を占め、次いで「15～19年」となっている。就業者26名の背景も同様だった。受講動機は、ブランクの期間に関わらず、「看護技術の手順を再確認したい」、「就業先の選択を広げたい」が多い。就業率は41.3%であり、看護技術を確認することで、手順や感覚が戻り、再就業の動機づけとなっている。参加者の技術レベルが様々であることや、新型コロナウイルスワクチン接種に従事することが求められており、今後も講習内容や研修機会の充実を図る。

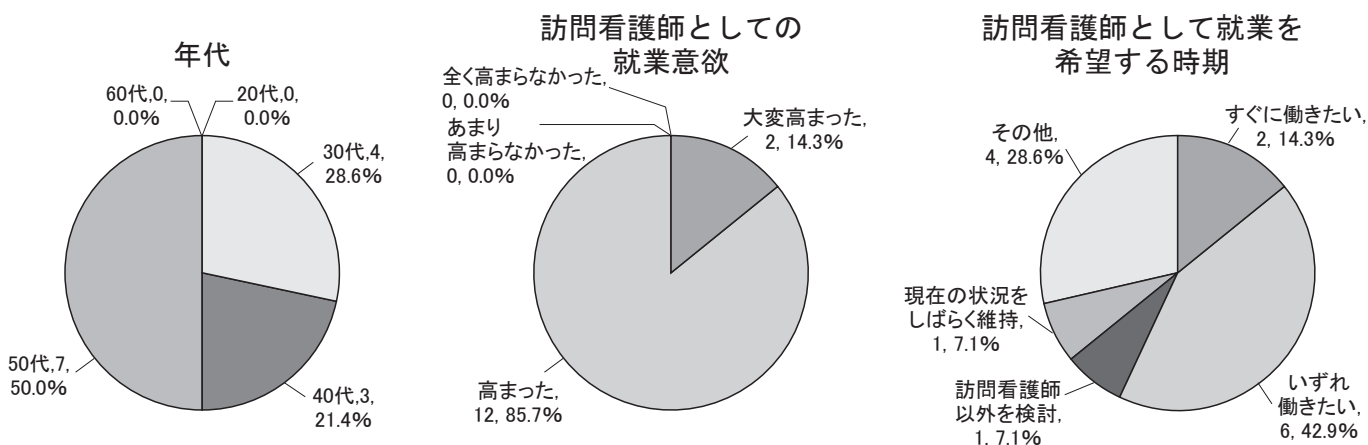
【訪問看護基礎研修会】

- 1) 目的： 訪問看護師の役割や訪問看護に必要な基本的知識を学び、訪問看護師として働くことへの動機づけとする。
- 2) 参加状況： 参加者 14 名（未就業 10 名、就業者 4 名）
- 3) 就業状況： 就業者 7 名（未就業者 6 名、転職 1 名） 就業率 50%
うち訪問看護ステーション 3 名（未就業者 2 名、転職 1 名）
- 4) 内容： 訪問看護に必要な基本的知識（講義）
訪問看護の仕事や復職に関する悩みや不安を話してみよう（情報交換）

受講者背景

【研修を知ったきっかけ】 上位 3 つ（複数回答）

	件数
ナースセンターからのお知らせ(メール)	6
ハローワークからの紹介とチラシ	3
訪問看護ステーションからの紹介	2



まとめ：新型コロナウイルス感染症対策のため、1日コースである技術体験は中止し、半日コースのみの開催となった。参加者の年代は、「50代」、「30代」、次いで「40代」となっている。研修を知ったきっかけの上位は、「ナースセンターからのお知らせ」、「ハローワークからの紹介とチラシ」、「訪問看護ステーションからの紹介」であった。受講後のアンケートでは、訪問看護師としての就業意欲は、「大変高まった」、「高まった」と全員が回答した。また、訪問看護師として就業を希望する時期では、「すぐに働きたい」が14.3%、「いずれ働きたい」が42.9%であった。受講後の訪問看護ステーションへの就業状況は、参加者14名のうち3名が就業・転職しており、訪問看護師として働くことへの動機づけになったと考えられる。

【看護職の定着確保にかかる調査】

(1) 看護職の定着確保動向調査

調査結果の概要

① 県内病院の看護管理者

調査目的： 県内病院における看護職の需給動向や教育研修体制、労働条件、定着確保対策を把握し今後の看護職の定着確保対策の基礎資料を得る

調査対象： 県内病院の看護管理者

調査時期： 令和2年9月16日～令和2年9月30日

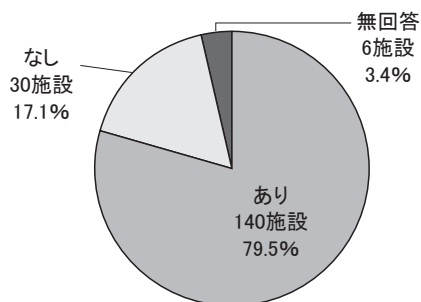
調査方法： 千葉県内病院の看護管理者宛に、返信用封筒を同封した調査票を郵送・回収

回収状況： 配布数 290 病院 回収数 176 病院 回収率 60.7%

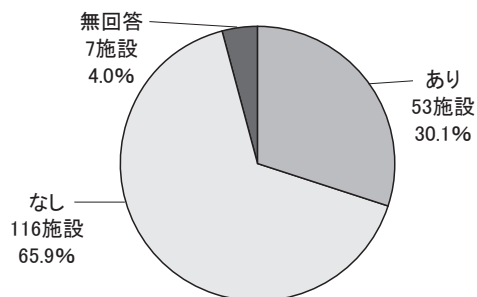
ア. 許可病床数及び回答率

病床数	99床以下 (n=93)	100-199 (n=90)	200-299 (n=42)	300-399 (n=33)	400-499 (n=18)	500床以上 (n=14)
回答施設数	51	56	23	23	12	11
回答率	54.8%	62.2%	54.8%	69.7%	66.7%	78.6%

イ. 入退院支援及び地域連携を担う部門

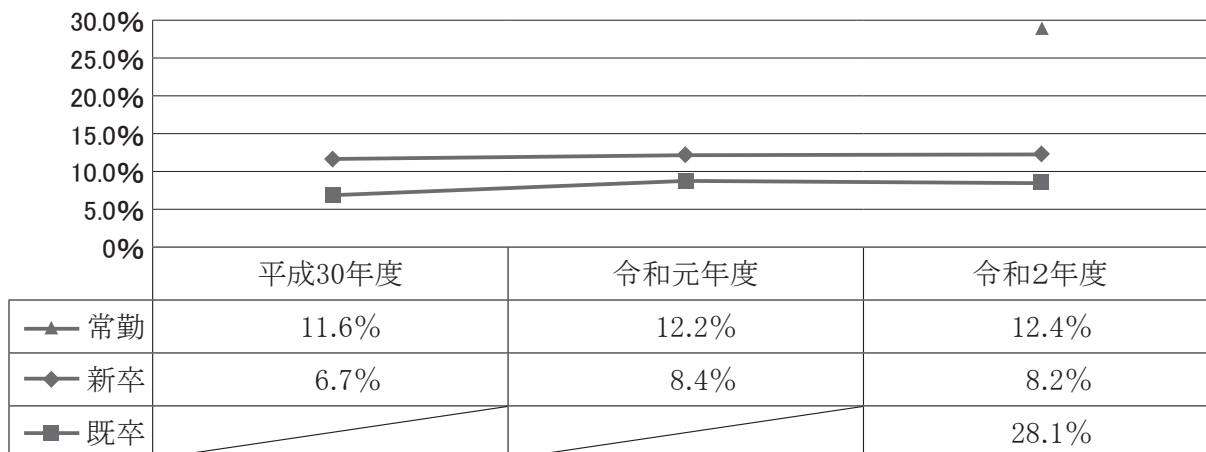


ウ. 令和元年度1年間の在宅患者訪問看護・指導料の算定実績



エ. 離職率

常勤看護職員	新人看護職員	既卒看護職員
12.4%	8.2%	28.1%



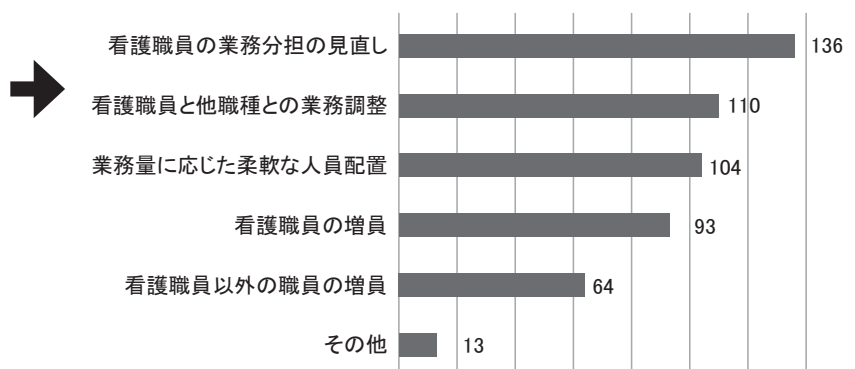
オ. 規模別 離職率

	99床以下	100-199	200-299	300-399	400-499	500床以上
常勤	12.1%	10.5%	12.0%	14.9%	10.7%	13.3%
新人	15.0%	8.3%	6.1%	10.6%	9.5%	6.9%
既卒	34.3%	30.2%	20.2%	33.2%	14.1%	32.9%
新人採用延べ人数	40	181	181	339	346	829
新人採用有施設数	13	34	18	18	10	10
1施設あたりの平均人数	3.1	5.3	10.1	18.8	34.6	82.9

カ. a. 看護職員の超過勤務労働を減らす具体的な対応策

対策している	165	93.7%
対策していない	10	5.7%
無回答	1	0.6%

超過勤務労働を減らす具体的な対応実施状況(複数回答)



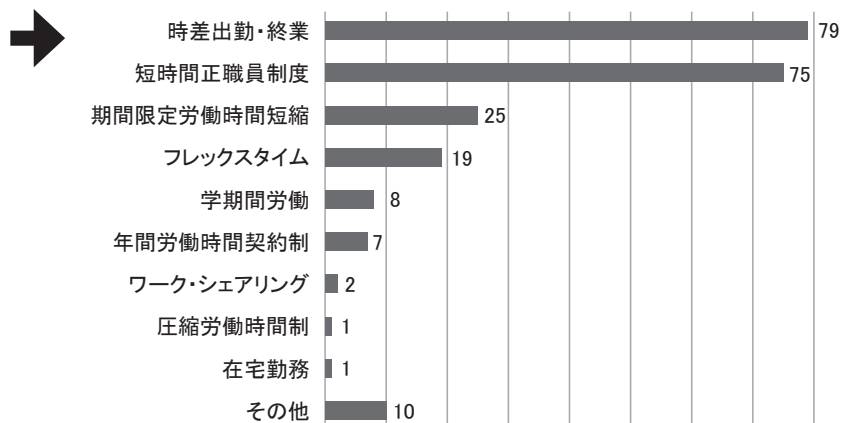
b. 規模別 看護職員の超過勤務労働を減らす具体的な対応策

	99床以下 (n=51)	100-199 (n=56)	200-299 (n=23)	300-399 (n=23)	400-499 (n=12)	500床以上 (n=11)
対策している	45 88.2%	53 94.6%	22 95.7%	22 95.7%	12 100.0%	11 100.0%
対策していない	6 11.8%	2 3.6%	1 4.3%	1 4.3%	0 0.0%	0 0.0%
無回答		1 1.8%				

キ. 多様な勤務形態導入状況

導入している	126	71.6%
導入していない	50	28.4%
無回答	0	0.0%

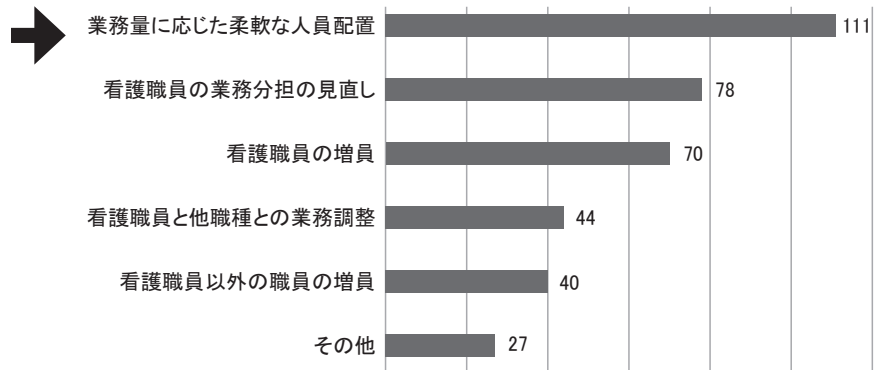
多様な勤務形態導入状況(複数回答)



ク. 育児に関する取り組み

取り組んでいる	156	88.7%
取り組んでいない	18	10.2%
無回答	2	1.1%

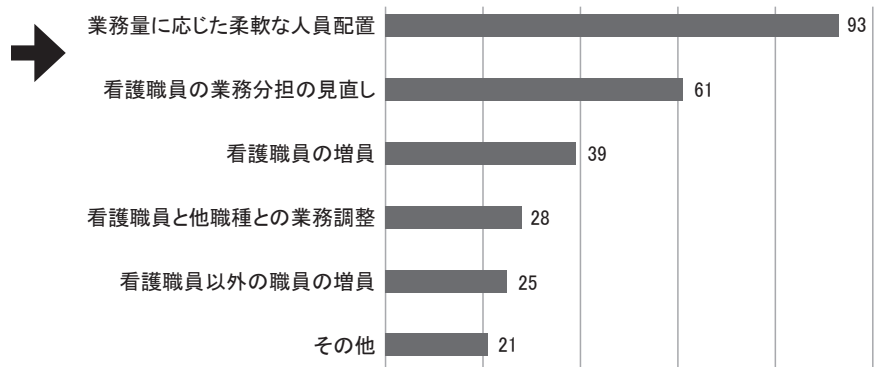
育児に関する取り組みの実施状況(複数回答)



ケ. 介護に関する取り組み

取り組んでいる	134	76.1%
取り組んでいない	39	22.2%
無回答	3	1.7%

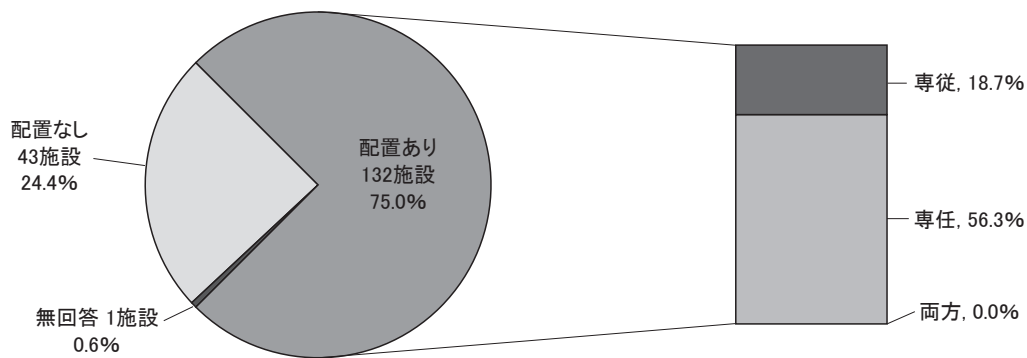
介護に関する取り組みの実施状況(複数回答)



コ. 看護職員の卒後の教育研修体制

a. 教育部門の教育研修責任者の配置状況

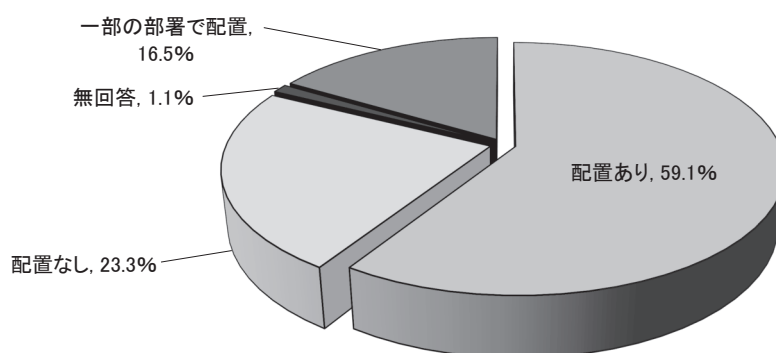
教育部門の研修責任者配置状況



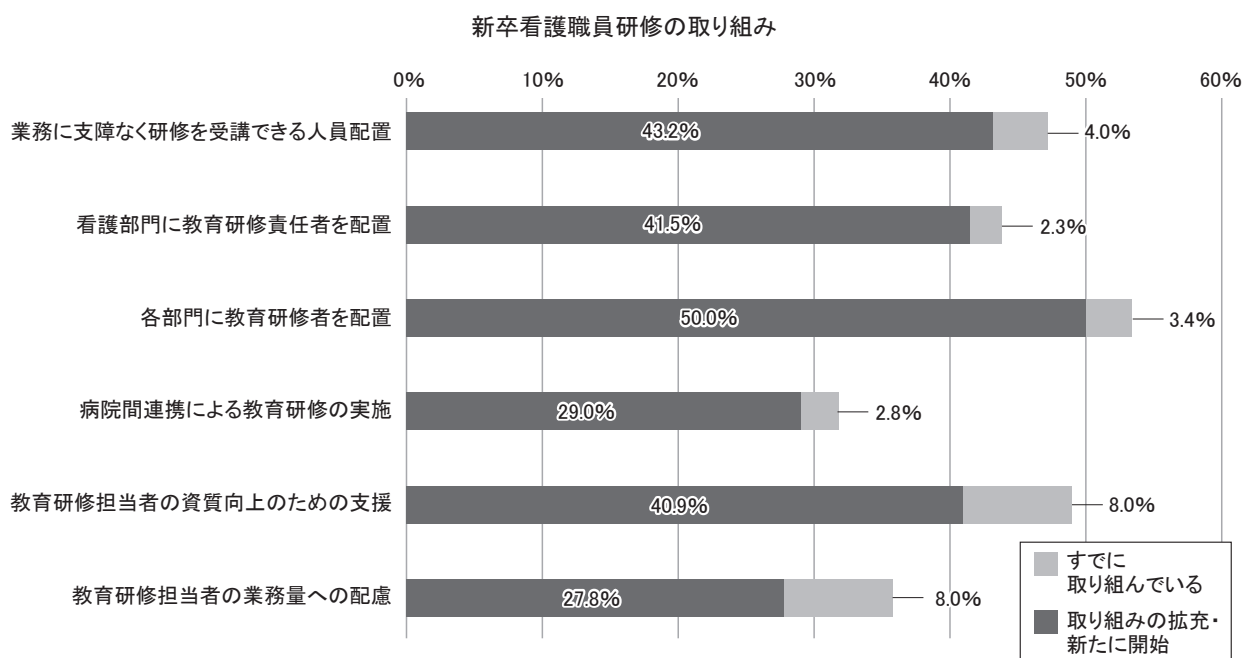
b. 規模別 配置状況

	99床以下 (n=51)	100-199 (n=56)	200-299 (n=23)	300-399 (n=23)	400-499 (n=12)	500床以上 (n=11)
対策している	27 52.9%	42 75.0%	20 87.0%	21 91.3%	12 100.0%	10 90.9%
対策していない	24 47.1%	13 23.2%	3 13.0%	2 8.7%	0 0.0%	1 9.1%
無回答		1 1.8%				

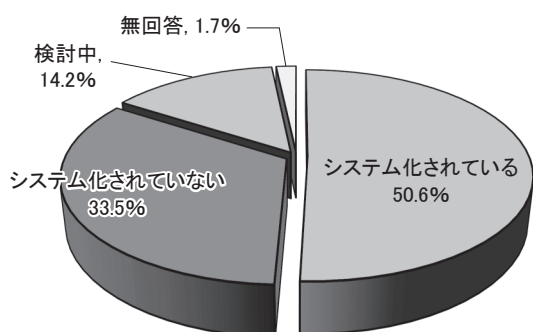
c. 各部署（看護）単位の教育研修担当者（プリセプターを除く）配置状況



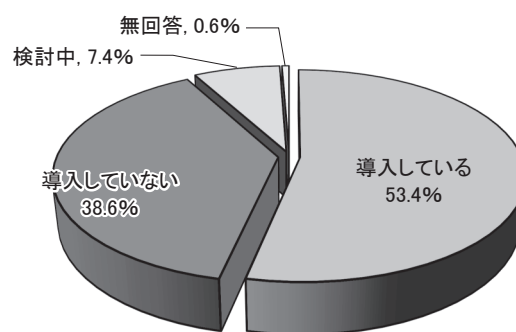
d. 新卒看護職員の教育研修体制について



e. 全看護職員の卒後研修体制のシステム化状況



f. キャリアラダー導入状況



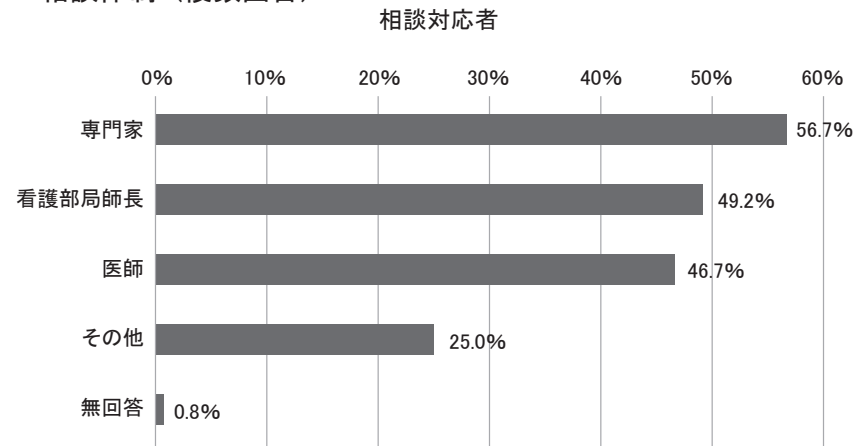
	99床以下 (n=51)	100-199 (n=56)	200-299 (n=23)	300-399 (n=23)	400-499 (n=12)	500床以上 (n=11)
導入している	12 23.5%	28 50.0%	16 69.6%	16 69.6%	11 91.7%	11 100.0%
導入していない	34 66.7%	23 41.1%	6 26.1%	5 21.7%	0 0.0%	0 0.0%
検討中	5 9.8%	4 7.1%	1 4.3%	2 8.7%	1 8.3%	0 0.0%
無回答		1 1.8%				

サ. メンタルヘルスに対する相談体制

a. 導入状況

導入している	153	86.9%
導入していない	16	9.1%
検討中	5	2.9%
無回答	2	1.1%

b. 相談体制（複数回答）



シ. ナースセンターの事業について

a. ナースセンターの無料職業紹介の利用

している	100	56.8%
していない	73	41.5%
無回答	3	1.7%

ス. 届出制度

a. 離職者へ説明

している	153	86.9%
していない	20	11.4%
無回答	3	1.7%

まとめ

- ・ 離職率は昨年度と比べ、常勤看護職員は0.2ポイント増、新卒看護職員は0.2ポイント減となった。既卒看護職員は28.1%であった。規模別で見ると99床以下の新卒看護職員は15.0%で県全体の離職率と比べ6.8ポイント高い。
- ・ 「看護職員の超過勤務労働を減らす具体的な対応策」について、対策している施設は県全体で88.2%であった。規模別で見ても全カテゴリーで8割以上が対策を実施していた。
- ・ 教育研修体制のうち、教育研修責任者の配置状況は県全体で75.0%だが99床以下では52.9%と低い。また、「キャリアラダー導入状況」については、導入している施設は県全体で53.4%であった。規模別では99床以下23.5%、100床以上-199床以下50.0%と平均を下回っている。

②千葉県看護協会会員施設の新人看護職員

(1) 看護職の定着確保動向調査

調査結果の概要

①県内病院の看護管理者

調査目的：新人看護職の現状を把握し、今後の看護職の定着確保対策の基礎資料を得る

調査対象：千葉県看護協会会員施設（570施設）の新人看護職員

調査時期：令和2年12月15日～令和2年12月24日

調査方法：千葉県看護協会ホームページのアンケート機能を活用したWeb調査。

千葉県看護協会会員施設の看護管理者宛に、調査依頼を郵送し、新人看護職員に配布の依頼をした。

回収数：791名

ア. 性別

女性	男性	無回答
719	72	0
90.9%	9.1%	0.0%

イ. 卒業した看護師等学校養成所

大学院	大学	看護学校	保健師学校	助産師学校	准看護師学校	その他	無回答
6	297	433	1	10	23	20	1
0.8%	37.5%	54.8%	0.1%	1.3%	2.9%	2.5%	0.1%

ウ. 職種

保健師	助産師	看護師	准看護師	無回答
11	26	722	31	1
1.4%	3.3%	91.3%	3.9%	0.1%

エ. 勤務形態

常勤	非常勤	無回答
787	3	1
99.5%	0.4%	0.1%

オ. 現在の就業施設の所在地区

千葉	市原	船橋	市川	松戸	東葛	印旛	利根	山武	長夷	君津	安房	県外	無回答
155	32	120	55	42	63	61	68	23	12	36	58	0	66
19.6%	4.0%	15.2%	7.0%	5.3%	8.0%	7.7%	8.6%	2.9%	1.5%	4.6%	7.3%	0.0%	8.3%

カ. 施設規模・施設等

病院							無床診療所	有床診療所	市町村	健康福祉社	訪問看護ステーション	介護保健施設	社会福祉社	その他	無回答
20～99床	100～199床	200～299床	300～399床	400～499床	500床以上	病院合計									
23	84	84	118	111	329	749	1	1	7	1	6	0	2	2	22
2.9%	10.6%	10.6%	14.9%	14.0%	41.6%	94.6%	0.1%	0.1%	0.9%	0.1%	0.8%	0.0%	0.3%	0.3%	2.8%

キ. 辞めたいと思ったことの有無

ある	ない	無回答
565	226	0
71.4%	28.6%	0.0%



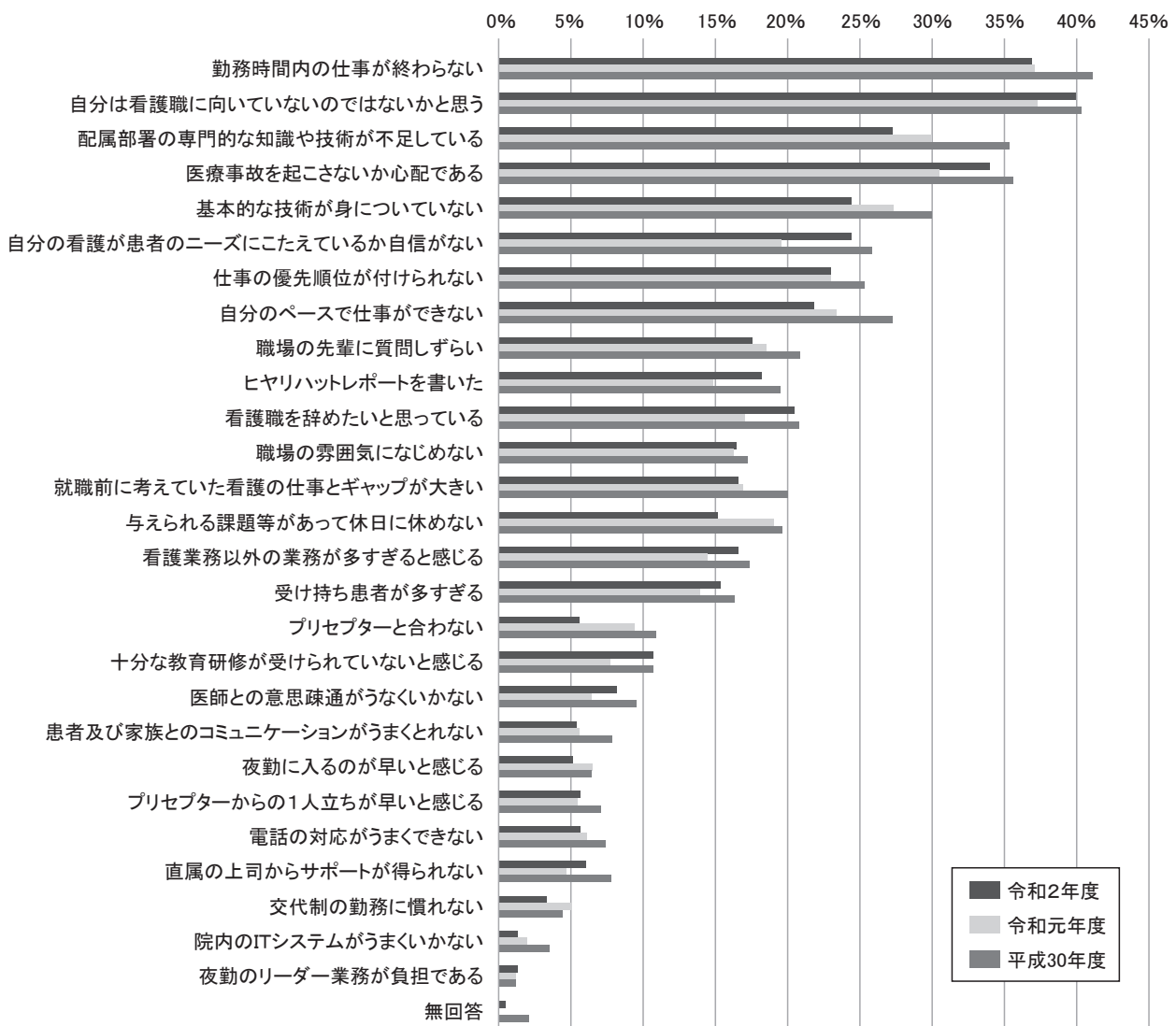
施設規模・施設等

(n= 565)

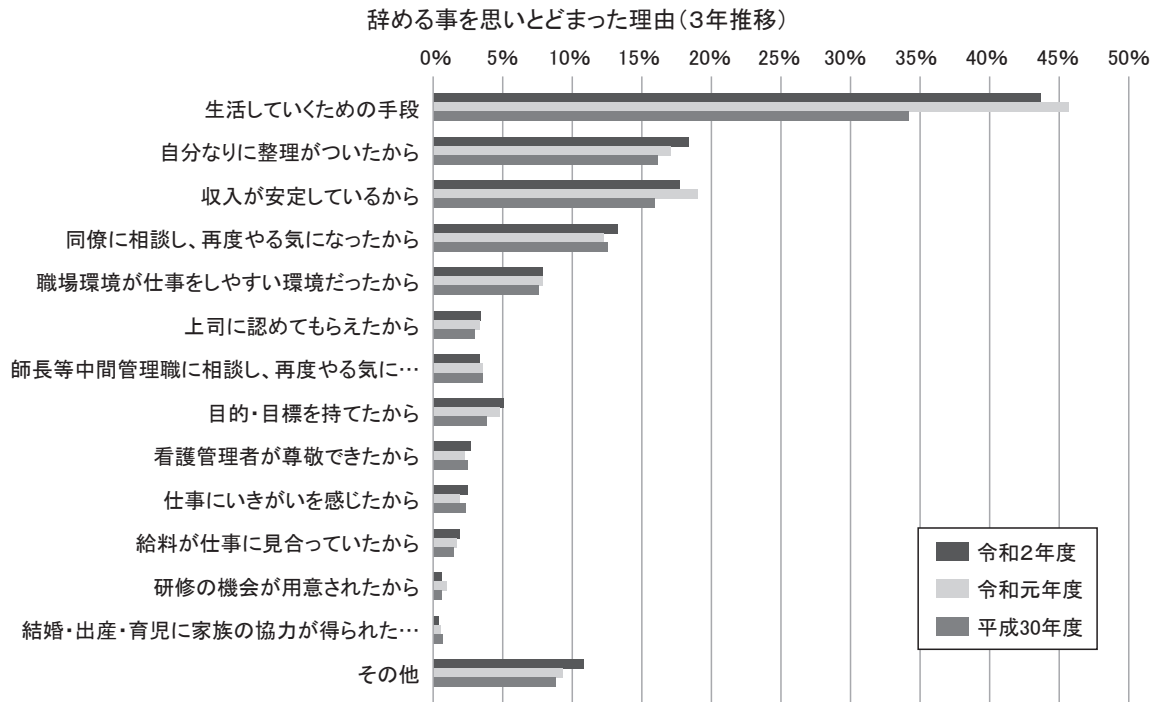
病院							無床診療所	有床診療所	市町村	セ健康 ンタ福 ル社	ス訪 テ問 ーシ ョン ン護	施介 護保 設健	施社 会福 設社	そ の 他
20～ 99床	100～ 199床	200～ 299床	300～ 399床	400～ 499床	500床 以上	床数 不明								
16	46	63	84	80	252	15	0	1	4	0	2	0	1	1
2.8%	8.1%	11.1%	14.9%	14.2%	44.6%	2.6%	0.0%	0.2%	0.7%	0.0%	0.4%	0.0%	0.2%	0.2%

ク. 辞めたいと考えた理由

辞めたいと考えた理由(3年推移)



ク. 辞める事を思いとどまった理由



コ. 社会人経験について

ある	ない	無回答
191	598	2
24.1%	75.6%	0.3%

サ. 社会人経験者で辞めたいと考えたことがある者

ある	ない	無回答	(n= 191)
125	66	0	
65.4%	34.6%	0.0%	

シ. 社会人経験者の辞めることを思いとどまった理由 (複数回答)

理由	人数	割合
生活していくための手段	80	41.9%
自分なりに整理がついたから	28	14.7%
収入が安定しているから	25	13.1%

ス. 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、 困ったこと・苦労していることの有無

ある	ない	無回答
623	168	0
78.8%	21.2%	0.0%

セ. 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、 困ったこと・苦労していることがあると思った理由(複数回答)

理由	人数	割合
ストレス発散ができない	490	78.7%
同僚との交流がない	391	62.8%
感染がこわい	323	51.8%
研修が十分に受けられない	282	45.3%
指導が行き届いていないと思う	81	13.0%
誹謗中傷や差別・偏見があった	39	6.3%
家族から辞めるように言われる	6	1.0%
その他	41	6.6%

③千葉県ナースセンターに登録の未就業看護職

調査目的：離職中の看護職の就業意向や希望する勤務条件等を把握し、今後の看護職の定着確保対策の基礎資料を得る

調査対象：千葉県ナースセンターに登録の未就業看護職

調査時期：令和2年9月16日～令和2年9月30日

調査方法：返信用封筒を同封した調査票を郵送・回収

回収状況：対象数 282名 回収数 75名 回収率 26.6%

ア. 年齢

20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	無回答
0	4	20	26	17	8	0
0.0%	5.3%	26.7%	34.7%	22.7%	10.6%	0.0%

イ. 離職時の職種

保健師	助産師	看護師	准看護師	無回答
7	2	64	2	0
9.3%	2.7%	85.3%	2.7%	0.0%

ウ. 看護業務の通算勤務年数

1年未満	1～3年	4～6年	7～9年	10～14年	15～19年	20年以上	無回答
0	4	14	12	14	7	24	0
0.0%	5.3%	18.7%	16.0%	18.7%	9.3%	32.0%	0.0%

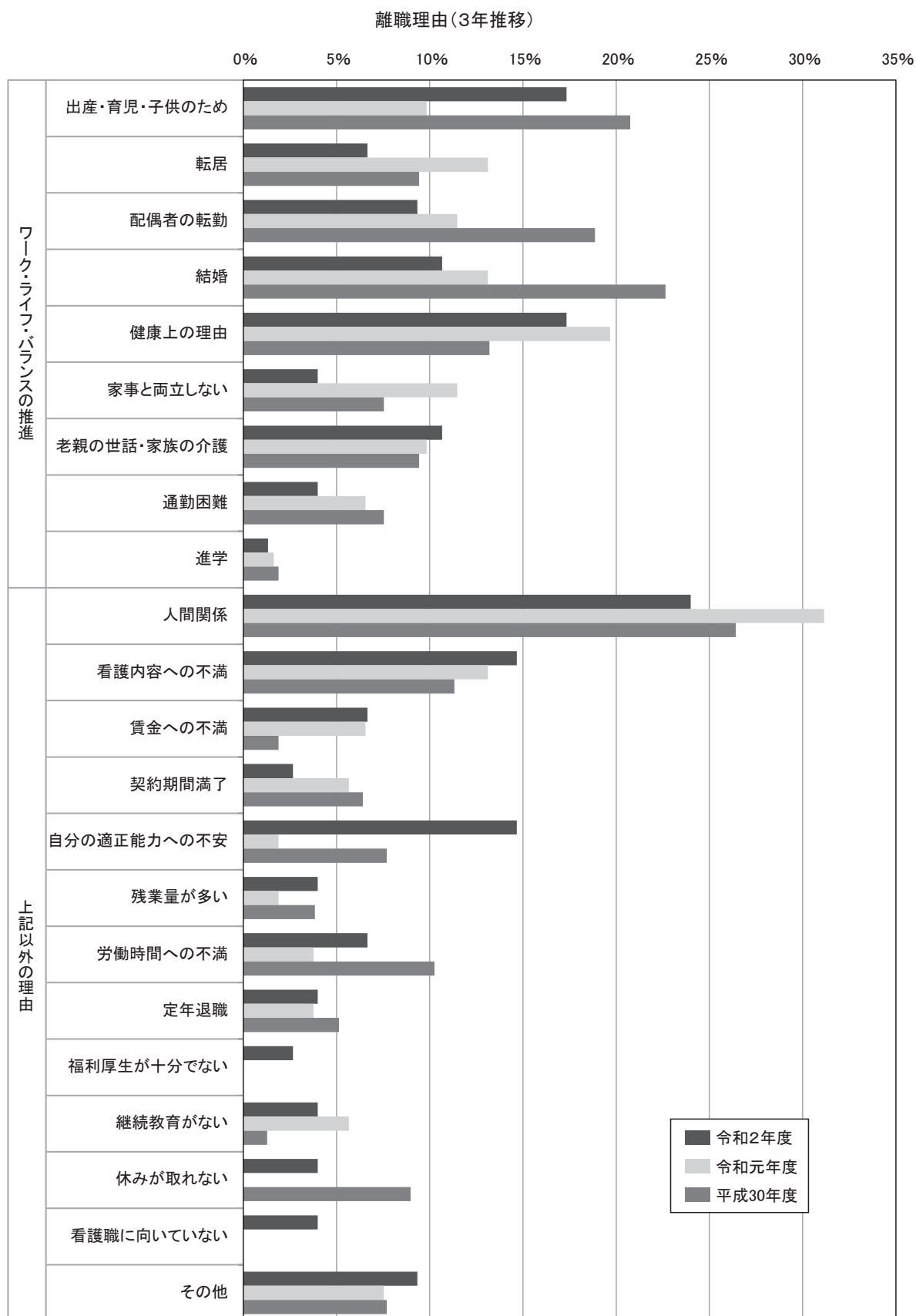
エ. ブランク期間

0～3年	4～5年	6～10年	11年以上
56	2	7	8
74.7%	2.7%	9.3%	10.7%

オ. 離職時の雇用形態

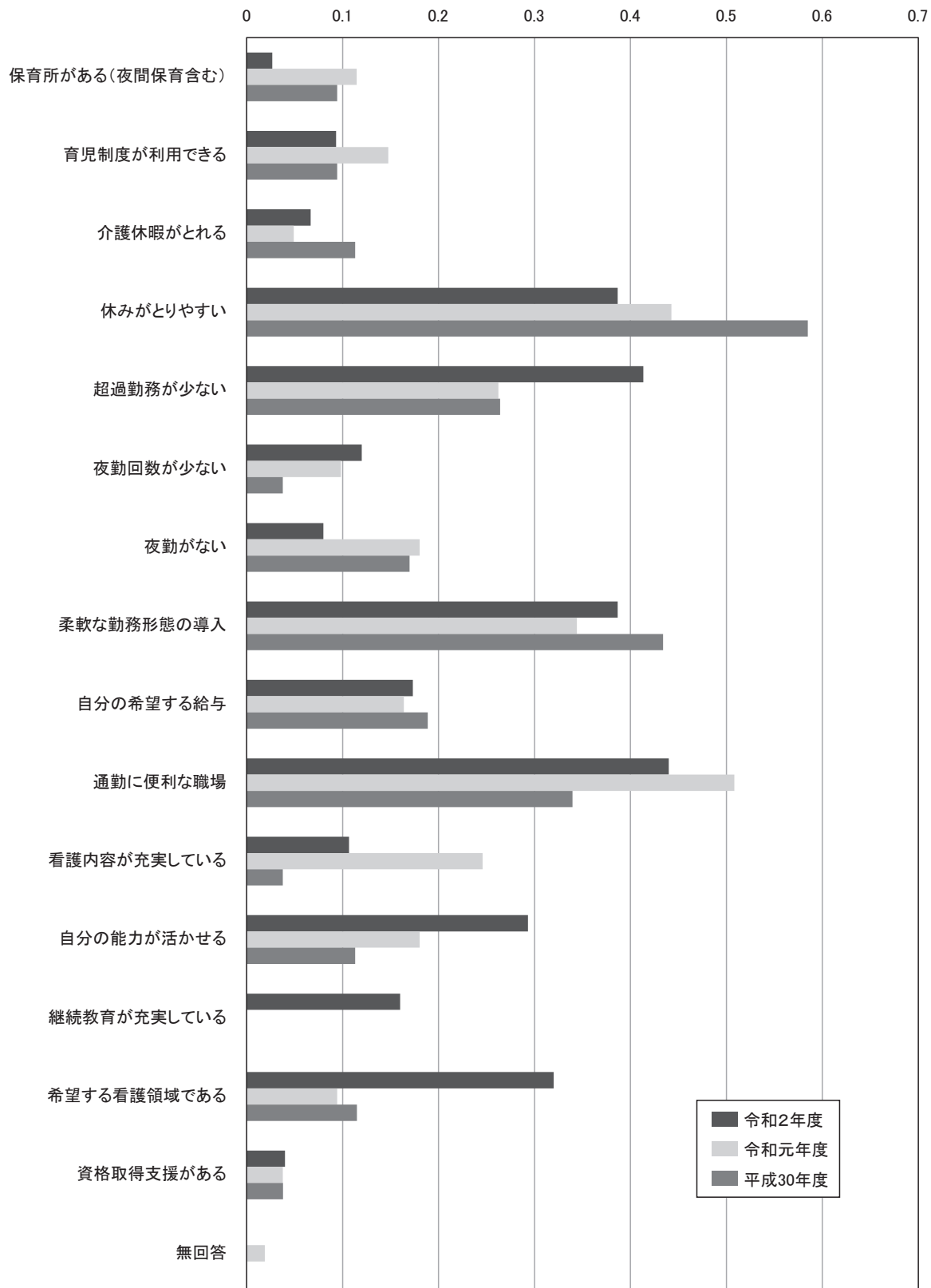
正規職員	非常勤職員	派遣	無回答
49	25	1	0
65.4%	33.3%	1.3%	0.0%

カ. 離職理由（複数回答）



キ. 就業条件（複数回答）

就業条件（3年推移）



(2) 看護職の再就業者実態調査

調査目的：ナースセンター事業において再就業した者の実態を把握し、今後の再就業促進に向けた支援方法もあり方を検討する。

調査対象：令元年度千葉県ナースセンター登録の再就業者（県外からの登録者と臨時雇用者を除く）

調査時期：令和2年10月26日～令和2年11月13日

調査方法：返信用封筒を同封した調査票を郵送により配布

回収状況：対象者：152名 回答者：76名（回答率50.0%）

ア. 性別

女性	男性	無回答
73	0	3
96.1%	0.0%	3.9%

イ. 年齢

20代	30代	40代	50代	60代	70代
9	19	23	15	8	2
11.9%	25.0%	30.3%	19.7%	10.5%	2.6%

ウ. 資格

保健師	助産師	看護師	准看護師	無回答
12	1	59	4	0
15.8%	1.3%	77.6%	5.3%	0.0%

エ. 就職時の就業状況

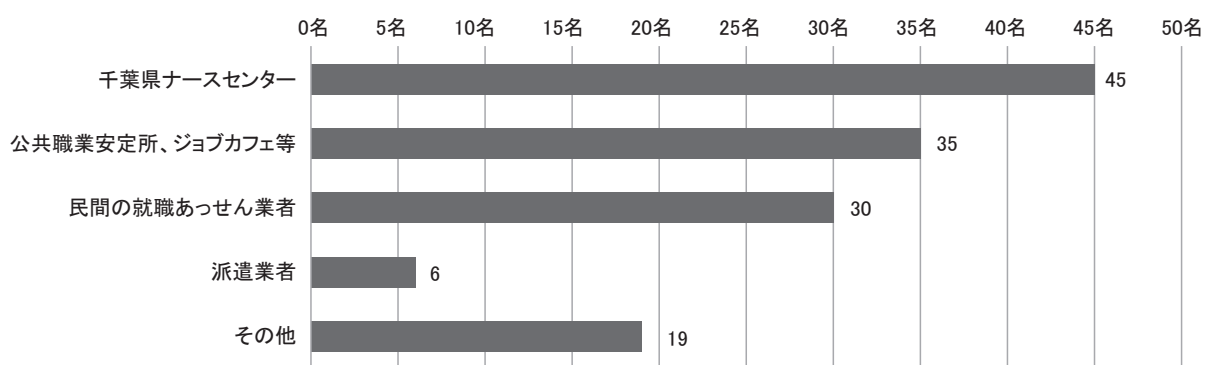
就業中	未就業	無回答
42	32	2
55.3%	42.1%	2.6%



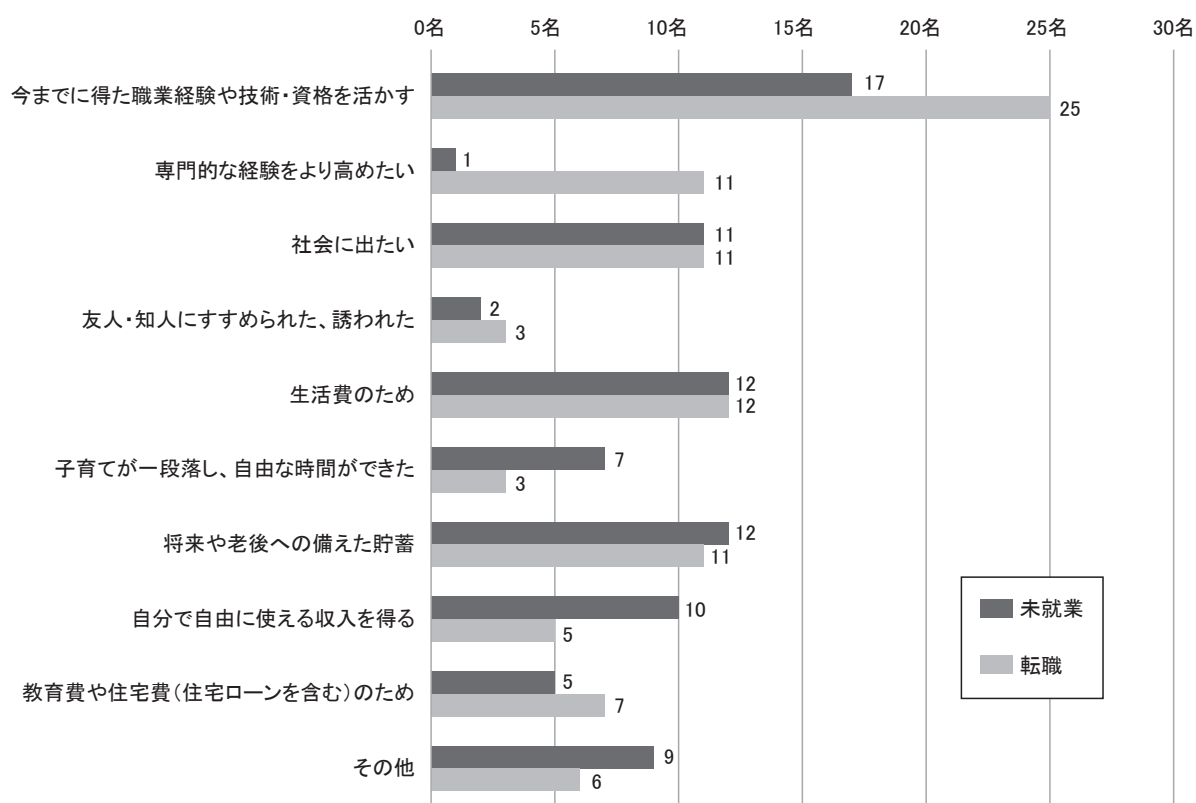
オ. 未就業者のブランク期間

6か月未満	～1年	1年以上 5年未満	～10年	～15年	～20年	～30年	無回答
8	8	7	3	1	3	0	2
25.0%	25.0%	21.9%	9.4%	3.1%	9.4%	0.0%	6.2%

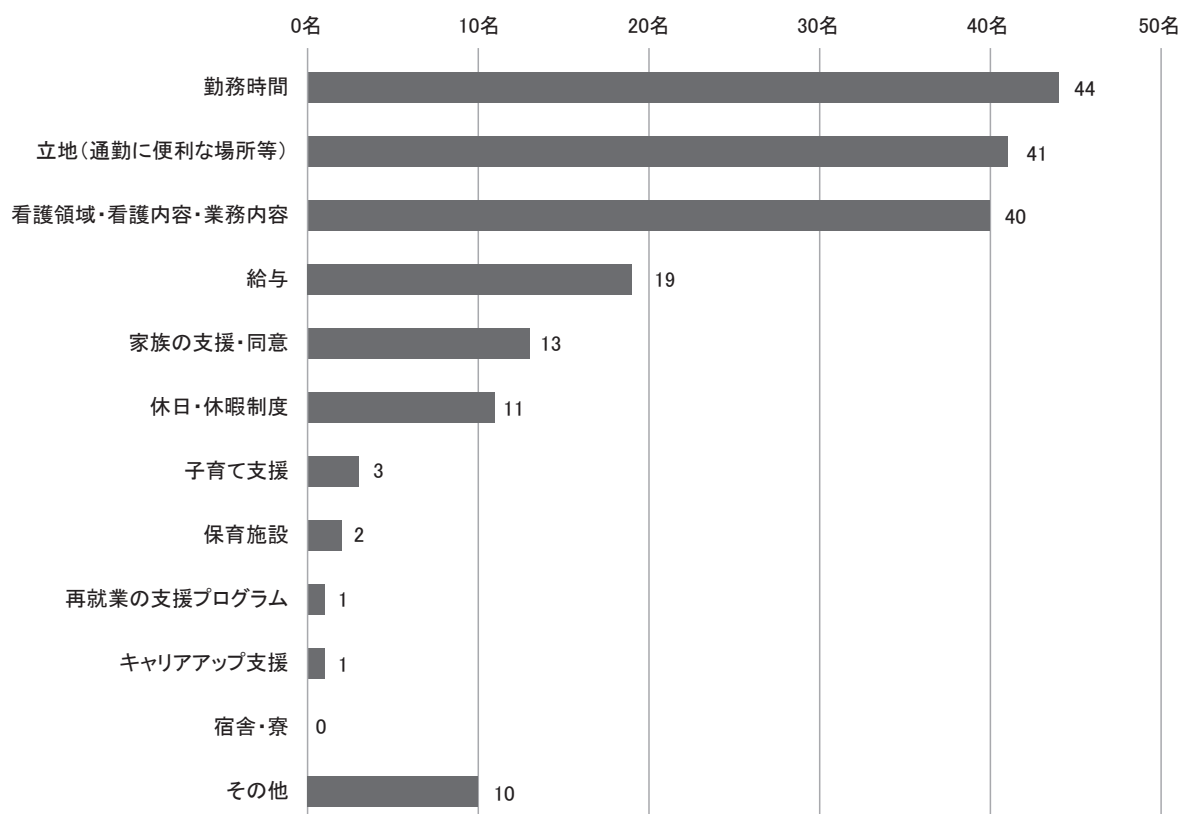
カ. 就職活動で利用した職業紹介所等について（複数回答）



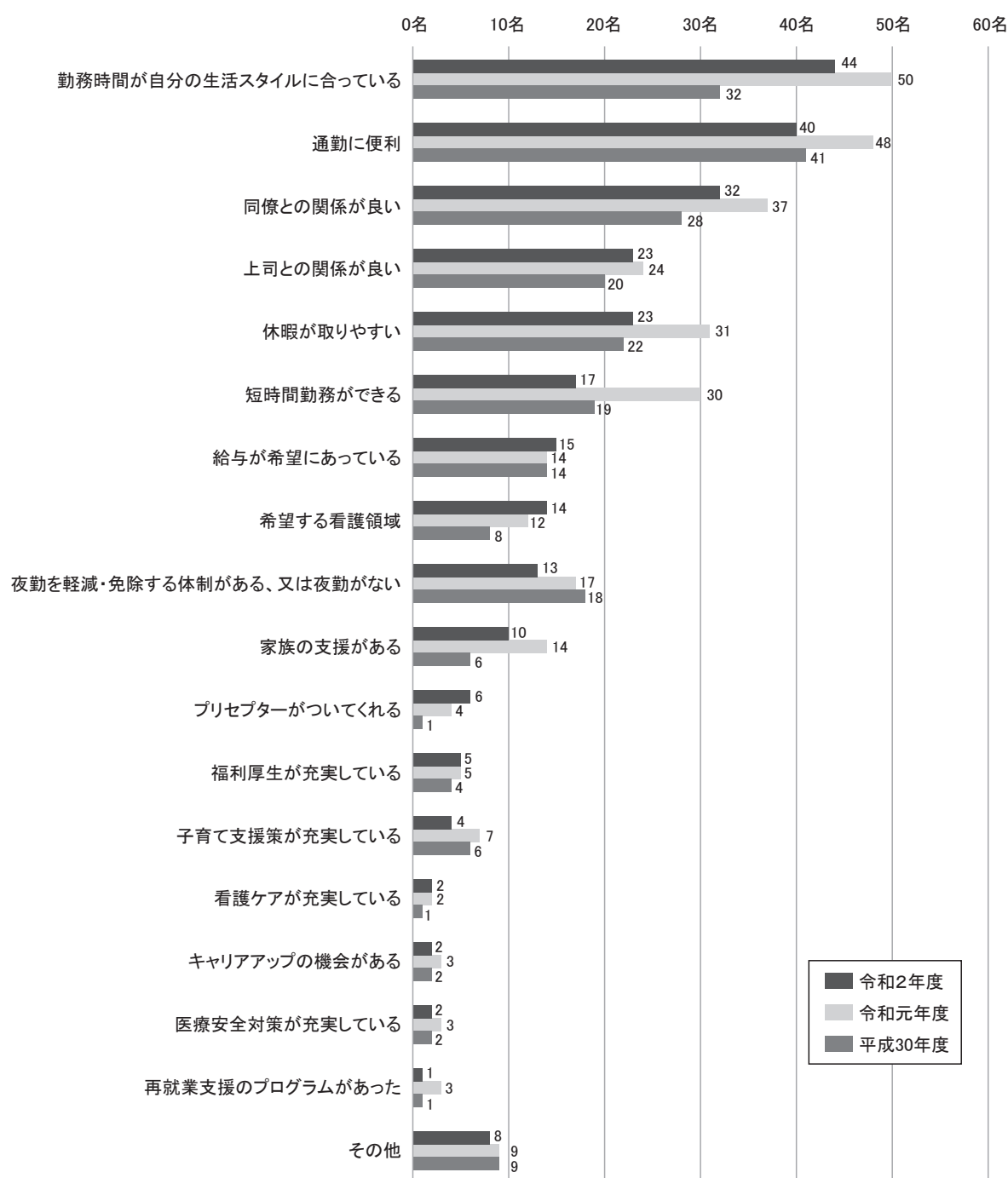
キ. 再就業のきっかけ（複数回答）



ク. 就業先決定の決め手



ケ. 現在勤務している施設で働き続けられている理由（複数回答）



まとめ：就業先決定の決め手は「勤務時間」や「立地」が上位を占め、次いで「看護領域」となっている。働き続けられる理由は、「勤務時間」、「通勤に便利」に加え「同僚・上司との人間関係」が上位にある。未就業看護職の離職理由では、「人間関係」が一番多かったことから、職場内の人間関係を保つことが定着のために重要である。今後も、求職者の意向に沿う求人施設への紹介を行うとともに、求人施設には、多様な働き方の検討に活用してもらえる求職者の傾向を情報提供していく。

3 医療・看護における安全対策

1) 医療安全推進週間の推進

(1) 第16回 医療安全大会

目 的：県民への安全・安心な医療・看護の提供に寄与することを目的に、医療安全推進週間に関する行事として医療安全大会を開催し、医療従事者の意識の向上と、組織的取り組みの促進から医療安全の普及啓発を図る。

医療の現場が病院から施設・在宅等の地域に広がる中で、医療安全の視点から地域連携の必要性と今後の課題を明確にし、地域連携の推進を目指す。

テ ー マ：「地域連携で支える医療安全」

日 時：令和2年11月15日(日) 13:00～16:00

会 場：Web 開催

参加人数：参加者数 151 名 Web 入室数 113 名 (看護職 136 名・他職種 15 名)

他職種：医師・薬剤師・臨床工学技士・放射線技師・理学療法士・事務職等

内 容：

①医療安全に関する標語 表彰式

②特別講演1「医療安全対策地域連携の実践～施設内・施設外の連携の実際～」

講師：鈴木 真 (医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 医療安全管理室 室長
産婦人科部長、総合周産期母子医療センター 顧問)

③特別講演2「医療安全地域連携評価の実践

～南大阪医療安全ネットワークで作成した評価表を使って～」

講師：堀田 いずみ (医療法人宝生会 PL 病院 医療安全管理室 室長
病院統括リスクマネージャー、看護師長)

ま と め：「地域連携で支える医療安全」をテーマとして3年目となり、第16回では実際に地域連携を実践している施設が講演を行った。特別講演1では施設内連携や施設間連携、連携時に活用できるチームステップスについて、特別講演2では多職種参加の医療安全ネットワークを構築した経緯や連携の実際、作成した評価表の活用を紹介した。

参加者アンケートでは、特別講演1・2共に「大変参考になった」・「参考になった」が90%以上を占め、今後、地域間での連携を考えている施設には、大変有用な内容であったと考える。今回、新型コロナウイルス感染症の拡大により、医療安全大会初のWeb開催となり、参加者は151名と(昨年408名)例年より大幅に少ない人数であった。これは、感染症対策で医療現場が繁忙であったこと、参加者側のWeb環境が整っていなかったこと、広報の遅れにより周知が行き届かなかつた可能性があることが理由と考えられる。

(2) 医療安全に関する標語、ポスターでの普及啓発

目 的：医療安全推進週間事業の一環として、医療安全に関する標語を通して県内の医療従事者が、医療安全に関し意識の向上を図る。また、優秀標語を使用したポスター等を活用し、安全な医療・看護への取り組みを一層強化するとともに普及啓発に寄与する。

募集内容：①医療安全に関連した 20 文字以内の標語とする。

②医療安全を推進する上で、多職種が共通活用できる標語とする。

募集結果：応募数 1,327 作品（看護職 882 作品、他職種 429 作品、不明 16 作品）

他職種：医師・薬剤師・臨床工学技士・放射線技師・臨床検査技師・
理学療法士・作業療法士・精神保健福祉士 等

入選作品：最優秀賞 「声あげよう あなたの気づきが 事故へらず」

東葛病院 周術期チーム

優秀賞 「間違いは いつでも どこでも あなたでも」

東邦大学医療センター佐倉病院 小林美穂（看護師）

医療安全ポスターの作成と配布：

医療安全に関する標語の最優秀標語とその受賞者を含めた施設職員の写真を
組み合わせたポスターを作成し、医療安全大会にて公表後、県内医療機関及
び他職種団体、行政機関、会員施設等へ配布した。

ま と め：標語の応募数は前年度と比較すると 294 作品減っているが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により医療現場が繁忙であったことを考慮すると、多くの応募であったと言える。

他職種による応募が前年度よりも 1.8%増加しており、医療の現場に従事する多くの職種に周知され、医療安全の意識向上に寄与できていると考える。

2) 医療安全管理者の育成

(1) 医療安全担当者(中央・地区)交流会の開催

①医療安全担当者中央交流会

目 的：県内の医療安全担当者間の情報共有とスキルアップを支援することにより、
県民に安全・安心な質の高い医療・看護を提供する。

ね ら い：ア 安全な医療を提供するために、医療安全に係る重要な知識や情報を得る
ことで、自施設の安全強化に活かす。

イ 同じ地区で活動している看護職間の連携を深め、情報交換・検討を行い
ながら、各施設等の課題を明確にし、今後の活動の参考とする。

ウ 各地区内での多職種連携の強化に向け、地区のチーム活動につながるリ
ーダーシップを発揮する。

日 時：令和 3 年 2 月 6 日（土） 10:00～11:50

方 法：Web 開催

参加人数：45 名（専従 19 名・専任 10 名・兼任 14 名・その他 2 名）

内 容：実践報告「千葉県内 医療安全ネットワークの活動紹介

～立ち上げから活動方法・内容について～」

ま と め：令和 2 年度は、実際活動している施設からの実践報告であったことから、コ
ロナ禍でどのように地区間で連携を取っているのか等、具体的な内容が共有
でき、ネットワーク推進に向け有意義な交流会であったと考える。

IV 県民への健康・福祉の増進に関する事業

1 「看護の日」「看護週間」事業

1) 第30回県民が集う「看護の日」

(1) 【第1部】

「看護の日・看護週間」制定30周年・ナイチンゲール生誕200周年記念事業 in ちば

目的：県民が集う「看護の日」として、県民一人ひとりが看護についての関心と理解を深めると共に、県民とともにあゆむ信頼される看護のイメージづくりを図り、健康で安心して暮らせる社会づくりの実現に寄与する。

看護職への関心を深め、看護の本質を伝えることを通して、県民の健康の向上に貢献する。

テーマ：「看護」は世紀を越えて進化する ～看護の力で健康な社会を！～

～地域で輪となりつなげる看護～

主催：公益社団法人千葉県看護協会

共催：千葉県、県内54市町村、県内25団体・企業

日時：令和2年11月29日（日） 13:00～16:00

方法：Web開催

内容：

1 開会式 千葉県看護協会会長挨拶 来賓挨拶(日本看護協会会長・千葉県知事・千葉県医師会長)
2 第47回フローレンス・ナイチンゲール記章受章者からの記念講演 「がんになっても自分らしく生きるために」～相手の力を信じる看護の力～ 認定NPO法人マギーズ東京 共同代表理事・センター長 秋山 正子 氏
3 県行政からのメッセージ 「県保健医療行政が看護職に期待すること」 千葉県健康福祉部保健医療担当部長 渡辺 真俊 氏
4 地域で輪となりつなげる看護！ ① 特定行為実践活動から 「地域における創傷管理の実際と今後の課題」 千葉県循環器病センター 継続看護担当上席看護師長 皮膚・排泄ケア特定認定看護師 鈴木 由加 氏 ② 訪問看護実践活動から 「専門性を発揮した訪問看護活動とネットワークづくり」 (一社)千葉県訪問看護ステーション協会 会長 山崎 潤子 氏

参加人数：142名（看護職68名・学生65名・その他4名・不明5名）

(2) 【第2部】 中止

まとめ：今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため第1部中央行事はWeb開催、第2部地区行事は開催中止となった。第1部では学生の参加も多く、これから看護を担う人たちへ看護の本質を伝える機会になったと考える。

2 自殺予防対策事業

1) 心の総合相談窓口

目的：自殺原因の第1位である「健康問題」をはじめ、看護の専門性を活かして、様々な悩みの原因について受け止め、相談先の紹介等ゲートキーパーとして解決に向けた支援を行う。

相談日：月・水・金 13:00～16:00

相談方法：電話・メール

相談件数・内容：

(1) 相談件数 年間 167 件(163 名)

相談件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	割合 (%)
質件数：相談者数 (人)	20	8	7	2	2	4	30	26	23	14	11	16	163	97.6
リピート数 (件)	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	2.4
延件数 (件)	24	8	11	2	2	4	30	26	23	14	11	16	167	100

(2) 相談者内訳

①背景

相談者の背景	実件数	割合 (%)
県民	151	92.8
看護職	11	6.6
その他の医療職	0	0
福祉職	0	0
看護学生	1	0.6
その他の学生	0	0
その他・不明	0	0
合計	163	100.0
精神受診者 (再掲)	29	17.4

③年代

年代別	実件数	割合 (%)
10代	0	0.0
20代	8	4.9
30代	3	1.8
40代	2	1.2
50代	14	8.6
60代	2	1.2
70代以上	12	7.4
不明	122	74.8
合計	163	100.0

②性別

性別	実件数	割合 (%)
女性	115	70.1
男性	21	19.8
不明	17	10.2
合計	163	100.0

④居住地 (地区部)

居住地 (地区)	実件数	割合 (%)
千葉	11	6.7
市原	3	1.8
船橋	6	3.7
市川	0	0.0
松戸	3	1.8
東葛	13	8.0
印旛	5	3.1
利根	4	2.5
山武	3	1.8
長夷	2	1.2
君津	4	2.5
安房	0	0.0
県内地区不明	73	44.8
県外	1	0.6
不明	35	21.5
合計	163	100.0